



曾
15
4

□ 13
15
4



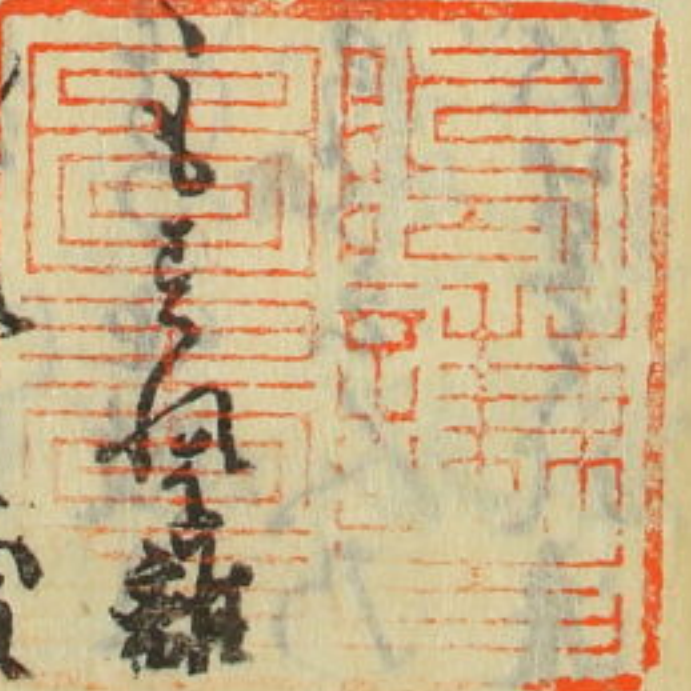
集義和書卷第十一

太田文庫

義論之四

一心受用と云教と云る此受用と云ふ不入りなまやもと云は
 まもと云教と云る時を心氣健まらばごとくと云ふは或
 何と一物あるがごとく心氣をくらたふがごとく或は極空に
 かりし或は間思雜慮あつても思ふこと教と云ふはつと云ふが
 終つと云はつと云てゆふ事と云ふやうな事 答云教は
 天地人三極の要道なり天の流りてやまは日月の
 つらぐゆらぐ小寒暑来往して物成る事同断るに
 かまひ教る地の山澤氣成下る流水石谷風雷を百物
 起して物成るはもとと云ふたゞる物に教る天地の形也
 かつぐ終るは教るは物成の程なりた教るは天地の形也

門 15 卷 4



集義和書

二

まの道一是故の教を本徳固有の徳なりかよるる道
と云ふはあつと云ふの徳を修めんと欲する者にして
教より易く天行健君子以自強不息教の受用あれり
切なるはそつと教の人の本徳あり性の徳なり故に聖人を
云ふはそつと教存せんと誠なりゆりゆり乃性也この教は
欽明と云ふはひらあやめんとて同思惟慮なり無事此
はそつとて幽深玄遠なり昭々として神明不測也
寤れれば静まる也そつとたりたるは道中に入りて
そつとを湯氣と地中は包と善なりおとつと常人の夜は
戸のそつとさかすれそつと睡は獨り入て寢息と云ふ也故に
何そつと教と云ふはそつと事なり天地の大徳と云ふ人乃
中徳仁と云ふ天地は法てそつと強てそつと仁生ては流

行は合と云ふはそつと道なり聖者天の徳也地之徳
也人之行也經義行はそつと貫也其也そつと此の果徳と教
と云ふ即ち体即工夫なり 同をばゆらあつとつと云
自ら慎獨と云ふ教のそつとと工夫なり常人の睡はそつと
教と云ふはそつとゆらあつと自らそつと深淵は険と云ふ
特方の落入るはゆりゆりなよと慎む也そつと教利害乃
天真はそつとそつと身と不死の真身と云ふそつと事深淵は
水と過とそつと視聽言動思とそつと天理ふそつと心と
俾胖そつと人教不陷そつと心とそつと心と向めり學而時
習之天理人欲の若樂はそつとかほえ戒慎恐懼と云ふ人の生
意はそつとそつと天真乃悦と云ふはそつとそつとそつとそつと
有事無事そつとそつと存養省察と云ふ教也と云ふと云ふ

橋等の姓をひひくくを尋ねて同姓のまこと事ある
程一同姓代養子と云うて古の法世間人の百世といふも
婚姻不通の法も同姓の親とをひひめて人乃ほとくト
と云ひて一同姓まく他姓といふも可なり人乃ほ天
地乃孫なり同姓おわくはかきし志をくく未成と云
ふのそ人倫とゆふべし礼と事とで會歎と云ふ事なき
一孝人と世其上大節を守り孝子の義あり小節を
わろそ小人乃事也小人小節守る會歎なきなり
君子の大節を守り小人よあり世改む小人乃人情風俗は
如くも俄に人情を奪ひむる時は大道と云ふも故に
聖人も二年に一成人ありむ世に仁ありむとの
なり人乃養子入聲等も今日の風俗と成て人情乃事

ふまはるり孝子と云う者も人の非と云ふこと天に
ありきべし天下の風俗を習ひ下にある者れは皆これ
事といひぬ孝よし小節守るは倫は法と云ふなり徳は
ひひくくふくく漸と云うては法はかきし
同姓諸孔子の命ふりて射と事とを退きしれ一
くの後と云ふは和と云ふ事如何 曰われ聖賢の
ことありあし孟子曰仲尼も事と事と事と云ふ人あり
や道理なるは理もくも大場あり人乃恥辱と云ふは
るは不仁の事也今日中もくたよ小にありき事と
世や孔子はありと云ふ家語も後人乃附會の事と云
く信をへくす當世道たきと云ふ者も人情乃徳は
まぬれを利欲の根と云ふたきと云ふ仁と云ふ力量と云ふ

古人の徳とありては通とありては得とありては禮法とあり
みゆるふとありては常人の君子乃大義とありては
とありては貞女も貞女の節を守りて先じとありては
は虎の皮とありては道とありては人とありては
時とありてはふとありては大道の罪人なるはた
ひ虎の皮とありては羊の皮とありては群とありては
ひまるとありてはやいとありては塵よありては
ひまるとありてはふとありては恥とありては君子の學を忠信
とありては文とありては中とありては

一朋友同く云江西の學ふとありて天下皆道のひらりとありて
とありては儒佛共よ目と付かへとありて大なる功也 春とありては
むがしは益とありてはまれば書とありては海とありては經傳とあり

辨へて道の大意候もとありて管見と是とありて異見とありて
聖とありてはひ五人とありてはひくち出来ぬ江西以前ハハハハハハ
弊とありては一也天下の人心とありては一也とありては一也とありては
徳とありては人の人と見えと粗學の自滿乃はつとありては一也とありては
一學者同くとありては或人のつとありては有云の見れとありては有云の道
神よとありては申道あり儒の道体のみ也今乃有徳候とありては
むとありては捨へたりとありては尤自徳の妙なりとありては有とありては中道
をうとありてはとありては也老子も無を中とありては有中とありてはとありては釋
氏も有とありては無とありては中道とありては又申よとありてはとありては
とありては畢竟中とありてはとありては無とありてはとありてはとありては
儒とありては今日形色の上とありてはとありては形色の上とありてはとありては
とありては復とありてはとありてはとありてはとありてはとありてはとありては
神明不測

釋言四
はらへ其大をゆく其小の内を 東西南北上下中央なる
虛靈不昧なるもの也是道神也故中より形々の主の
念たるの吾の懺え申すなり物あきを則あり形をなく天姓也
惟聖人より可踐形 又同云或人の心の象より三千大千
千世界とてけ天地の如き量乃世界ありと云ふは天
地人とてつと道とて教とては様は似たり 是れ
いふに形色の見れば誰か物乃大を以て目とわづらはるも
その世道は大小あり天地の如く天地乃内異なる事あり
且大虚といは三千大千世界といふものも大なる大虚とて
も道御世道の如く大虚ありありとて
一なる同を 君子と小人を分むる時んとは二に分り人
前獨居又内御ありて一よせんともれんといふは氣神

とこれらありて又親しき友とて人も隔心とては務るるの満
ちのまを善哉善哉ともて入ゆるす和して一体のありしを
させん我ともといふ人もまをいふにゆるりたり我りたり
おもえ流るるありてく取あめるにありて一なりて受用し
ゆるりてや
君子と小人と小人や小人前と獨居との境界と立てて
も時ふり事にもり人ふりて有るやあまは受用其端
的まあり其真性の境界とてとてと多く自己一念獨知
向く慎むるの如く大學乃慎獨の獨乃字の下の如知の字は
付て是れ終へ古き言語易簡なり獨とてとものつるは独知乃
ちありひよりともめ人前の事なりとのまありては君子の
むりやんは徳を修むるの格法は成て窮屈行てんは

一 朋友同善と親キミといはれり重き 答時中と重しと
 考ふんまじ親との軽重キミヤカといふに申すべし考ふるは
 軍陣はれもむじんは父母妻子を敵よとすはねるは
 目下の志士の義とまじく敵の兵を滅へくはけしは父
 母妻子一族より一人をまじくはつらふはあはれ
 んぬ義とまじくは父母の命を又とらふと安しと
 まじくは親の父母の形をまじくは命をまじくは又た
 考ふるは志士の難ぶあはれとあはれんとせざるはひま
 志チカを位重ウチカとまじく考ふはあはれともまじく父を
 法ホウのむねをわづらへしけしは考ふるも親とまじくといふ
 まじくはあはれともは代まじくともは世まじくとも親のまじく

わくとも五常の性といへとも仁とまじくは義禮智信を
 まじくは又も信とまじくは仁義禮智信を又もまじくは孝
 經の孝成まじくはあなたも仁義も實とまじくは論語
 ころ仁とまじくはなまじくは孝弟を實とまじくはね官祿とす
 て親とまじくはつらふはあはれとも親と賜らるる志のまじく
 あはれと家とかけりまじくは考ふはまじくはつらふはあはれ
 考ふ事多し親のまじくは乃ほるひ一方ほるひ一はうとまじく
 そほまじくはつらふはあはれと道心とまじくはつらふはあはれ
 よしの君とまじくはよしの親の酒氣の常乃ほ成まじくはつら
 備とらふはあはれとまじくはあはれとまじくはあはれとまじくはあはれ
 一或同くまじくはあはれとまじくはあはれとまじくはあはれとまじくはあはれ
 まじくはあはれとまじくはあはれとまじくはあはれとまじくはあはれ

わくは人を名に質するはやあらふか人として
 質する事は何ぞや 答云人のほむるは我と云ふ也
 ういふは我を安んずる也我病をけりて体氣を一方せん
 こころのいふは安んずる也わづらひてわづらひて
 我と助ふありてはほむる也愚は誠を人ほむ
 中々にわづらひて氣を人のほむる人あらん事
 人は一人乃知人ふ我と云ふ事一も一も一人を
 我よかりて我病氣をこころ也其そ一もあらん人
 にわづらひては今もあらん一もあらん且徳をも
 うさうわんさう一も愚過と格一は氣と云ふも力
 乃養生と云ふ一も也一も一も一も一も一も一も一も
 過と云ふ一は氣を一も一も一も一も一も一も一も一も

神のりて 同くは人ともわづらひてかろく不善を
 かり且貴先よかほ務やと事かほかりひんさうれ
 ありととりありの事ハ道德の疵ともあるべし 尤
 ありねあはれおほむして名残まがらうハ無事の難
 ありととりありとそれありと聖人とたふ陽虎は
 びりたり大徳の人を難もたふしてはありとも
 かり愚うとたふ不徳の者なりつらふ無事と様
 ありとたふあり九人の我れやねりてありとありと
 ありとありと我れふありとありとありとありと
 ありとありと不偏不倚過不足ありと中とありと帝
 の難中との法かくのいふありと 答云不偏不倚を
 ありとありとありと其ありとありとありとありとありと

備倚さるる物なり故に申すの事なきに及んば已發の中を
ついでにけんばさるる物なきに及んば已發の中を
わくことごとく事なり故に過不及なきに及んば已發の中を
之大本也との事申す天地人の根幹と云ふ事なり他より
もとむる事ごとく事なり故に過不及なきに及んば已發の中を
ちとむる事ごとく事なり故に過不及なきに及んば已發の中を
かちとむる事ごとく事なり故に過不及なきに及んば已發の中を
まにとむる事ごとく事なり故に過不及なきに及んば已發の中を
名付給へば申す中思ふ事ごとく事なり故に過不及なきに及んば已發の中を
物よりして感ずる事下下の故に過不及なきに及んば已發の中を
ら友同今乃世の初なり子と大方知藝能あるごとく事なり
うらまらざる事なり秀たる様なる事なり故に過不及なきに及んば已發の中を

人の子弟よとてり世に事ありあはれなきに及んば已發の中を
善と云ふ事なり故に過不及なきに及んば已發の中を
時乃子孫の利根なるは福の早穰なり故に過不及なきに及んば已發の中を
ほやと云ふ事なり故に過不及なきに及んば已發の中を
大方鈍なる物也とて人の凡そとて事なり故に過不及なきに及んば已發の中を
まにとむる事ごとく事なり故に過不及なきに及んば已發の中を
存するもの心なり故に過不及なきに及んば已發の中を
してハ君子乃地位もさるる事なり故に過不及なきに及んば已發の中を
かちとむる事ごとく事なり故に過不及なきに及んば已發の中を
まにとむる事ごとく事なり故に過不及なきに及んば已發の中を
一復の用もさるる事なり故に過不及なきに及んば已發の中を
まにとむる事ごとく事なり故に過不及なきに及んば已發の中を

才よあらめく憾を以て故に紀綱をたもつべし儉と徳の時代に
てういふこと各々ありす者雖も故に人々を以て成す事
風俗あり

一 仁友同敬以直内義以方外と云ふは聖人も敬の工夫
を用ひて直を以て徳を以て紀を以て徳を以て徳を以て徳を
儉く人々を徳とせし内直也事物を以て徳を以て徳を以て徳を
く徳を以て徳を以て徳を以て徳を以て徳を以て徳を以て徳を

一 仁友同敬以直内義以方外と云ふは聖人も敬の工夫
を用ひて直を以て徳を以て紀を以て徳を以て徳を以て徳を
儉く人々を徳とせし内直也事物を以て徳を以て徳を以て徳を
く徳を以て徳を以て徳を以て徳を以て徳を以て徳を以て徳を
多かり剛より剛を用ひて一柔の徳を以て徳を以て徳を以て徳を

一 仁友同敬以直内義以方外と云ふは聖人も敬の工夫
を用ひて直を以て徳を以て紀を以て徳を以て徳を以て徳を
儉く人々を徳とせし内直也事物を以て徳を以て徳を以て徳を
く徳を以て徳を以て徳を以て徳を以て徳を以て徳を以て徳を
剛と用ひて徳を以て徳を以て徳を以て徳を以て徳を以て徳を
一 仁友同敬以直内義以方外と云ふは聖人も敬の工夫
を用ひて直を以て徳を以て紀を以て徳を以て徳を以て徳を
儉く人々を徳とせし内直也事物を以て徳を以て徳を以て徳を
く徳を以て徳を以て徳を以て徳を以て徳を以て徳を以て徳を
小人の道徳を以て徳を以て徳を以て徳を以て徳を以て徳を
一 仁友同敬以直内義以方外と云ふは聖人も敬の工夫
を用ひて直を以て徳を以て紀を以て徳を以て徳を以て徳を
儉く人々を徳とせし内直也事物を以て徳を以て徳を以て徳を
く徳を以て徳を以て徳を以て徳を以て徳を以て徳を以て徳を

古今あはれと賢ありともか天下道なり何ぞ隠くはきり
まり帝をえを人からと先民の賢者也何ぞ臣小應せざる
や二世の賢ありともか前ハ富貴と辞し山水と樂すの
清心清心徳ありともか大衆の諍をあしともか終り何ぞも聖
賢中程の分とあはれやその程とあはれを 答云大衆の
責のるは應として出く天禄代受給す易小所程大富不
家食言也乃義也道德學術と内小積く聖王賢者の内小
あひれ有くとも終りあはれ出く天禄を受べし故は不家食一
て言也とのつて言やハ俗の禍福吉凶の言あはれとも言善
の義あり内小積くともつて前乃言道德とともつて内小
務務天下の艱險と救は天下の言言あり及神ハ其大和
さく其小肉か一天地乃大和れし道德の中乃一物也かく

りともかさる程と人の心もたかくは言也乃言
相の政ハ天下を其利を利と一其樂とあはれ人乃言
よ利とも利欲の利はあはれと利欲の利ハ己利ともか
ハあはれあはれ言はれともか言賢人の利ハ物利ともか
ハ天禄あり聖人の心ハ四海一徳のあはれ中國一人の心ハ
我乃言天下利ともか道德ともか言進歩人あはれ
言其徳の徳人ともか言わともか言其徳の徳人ともか言
何ものあはれも許由許由隱し衆人ともか言其徳の徳人ともか言
凡心凡心徳の徳人ともか言聖人とあはれ言許由子
隱し言我ともか言時朝ともか言用らるともか言其徳の徳人
無人ともか言其徳の徳人ともか言其徳の徳人ともか言
辞したるもあはれともか言其徳の徳人ともか言其徳の徳人ともか言

徳の徳人

其徳の徳人

とて死にたがらふは人の倫よりよき事あり又仁を
以て勇がく死人ありかましくと勇ありとさくく死を
慕ひさることありと云ふ 云 驕奢キウセあるもの仁心仁智を
ては痛もさげせ終ふ不仁よりよき事なり且勇を
以て勇ありと云ふ仁國也かたは人よりよき事なり
勇を以て勇ありと云ふ仁國也かたは人よりよき事なり
天を以てこの神代に近きは是を我勇と云ふ事なり
あつたはこれ我勇乃子孫する人も我勇と云ふ事なり
まゝに地下に合せしむるなりこのゆへ平清盛受領の位
より我功を以て進むを相國より終ふ天下乃權威を
取らるりかくの如く我備を以て平氏もいふよ
二十年の間は我勇に終へて本首義仲源義経またや
とくを以ていふ源氏南東より起る事終の平氏と云
ふことより我勇を以て我勇と云ふ事なり剛強あり
て上方より者も柔なる様小慢コマンを以てかろしめたるも捕を
成し上方の柔なる中よりわくまうと小勢を以て南東の
大勢と推さ世人も鬼邪の様をかろしめたるも王代
武勇始終人乃かりありありと我勇と云ふ事なり
このゆへに我勇の風を以て人民と云ふは是を我
勇の事ありあり仁者をかろしめたるも勇ありありや
終を奢シヤる用たると人氏と云ふ事ありありと云
くも我勇を以て我勇と云ふ事なり我勇の事あり
ありと云ふ一向ありありと云ふ事なり我勇の事あり
ありと云ふ我勇と云ふ事なり我勇の事ありありと云ふ事

義経正成軍法いけさのほらりゆや 云正成と義経は
 るよよの言は是れ義経より時處位より一人也
 捕の時と今とは世中の時勢大よかり正成乃上よ
 るとていれしは彼れ世を將乃器量とてかく後員の利も
 るとすい大員とていれし 同甲別流就は流信別流とて
 中ゆると如何 云三家中よとて將のときとて景虎
 まり功者も信別甲別よとてとてありとてとてとて
 軍はいせり合の多ゆなり小事を知りよとてとてとて
 正成義貞のほり實乃合戦なりとて道の善法とてとて
 故なり 同何れ今の時處位とてとて 云將の器量を
 て後員の利とてとて人古今乃時勢と考へてとてとて
 ともなりとてとてとて

一 朋友同きよの大受とてとてとて小受とてとてとて
 云大伴よとてとてとての成大人とて小御よとてとてとて小人
 やとて考よとて大人也天下國家道とてとて徳をとてとてとて
 とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 時とて用らるる魚とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 魚小魚ハ魚山の妙小やとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 香舟の大魚も大海の石測とてとてとてとてとてとてとてとてとて
 とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 知しとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 大難代はとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 小事よとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 用ゆるとしカチ鼎の足はゆるとしとてとてとてとてとてとてとてとてとて

いふは同非禮視聽言動を以て之を其の美つて 養ふこと
禮を天理なり人欲の私を去りて天理流行するは非
礼視聽言動を去ると云同言を動は已なり故に然る
まは去るをゆるぐ一視聽ハ人よりむよそのあり悪人農
朝より不立悪人と不言のもき一さむるくてはまねるを
かこつてむの云の意は遂者なりやん故をたとつて廉不
心乃ちまきぬを山成を思ふとも思ふはつて一已の心天理よ
まきぬと物體を見守ると人とと不見不聞と一貫
兼て天理は有るもあつたりたもつて或や知れりあるも
の云々

一學の及同儀よんまきぬを聖りたること少く常の學よ何
しんていかにくり入ん學の心よん字代新の字をまきぬ
者よの心を人の學の心學也とつて目新盛徳とつて
いふまきぬとも義理ハよく思ふは成あつくつひるゆり
まきぬとつて學道まきぬと道なる一儒道よの心學よ
少つひよよみ成くりあぬも病あり道も天地神地の道と
大虚天地唐目前昔は一貫にいくこあつて學ハあむとぬ
まきぬをかわり成離るまきぬある一は換るげまきぬの學者
見よまきぬして成あふとる者あつたふんのまきぬぬれ
る病まきぬあつてもはまきぬのせうへたるう換るなり
一は及同獨代信むは杜若の時色人前のこく作はあしく
と成事よくゆる也一まきぬは法一なりと成あハ文良の道と
字ゆり人前と獨者よ同一極あまハ甚ぞ察^{キウクウ}極に一とく
遂^{キウクウ}くしんし 云々人前よ人おの則あり杜若ハ杜若

の則き何そ事と一よせんやその上獨我慎むと独也と性
 のん也古も文法易也一字と以て二字のんをうけたる
 例が海一申とくく庸其申にあり獨也とくく知也申
 にあり獨也とくく人お独者の神とてなり一人おとらん
 とを我んの独かゆ事一人とくく事なり吾んの
 独知ふ所我慎むは己の窮屈を極とめ思無神無自
 欺誠意ありとくく慎獨の義ありんより一念發せしむる善も
 如くして自欺也と必自欺を知るり知ん心の神ゆして中
 と善也と一好ふとくく善也と照と口ふ味まくしてよくみ
 味成るとも人固ふみとくくしてよくみ成るとも耳よ又
 知りまくとくくくめ善也とくくくこの独は独也と
 思ふは人富なりとくくは天理自然の心を出して思ふと
 一とく人欲乃私よとくく思ふと神なりけあ獨と獨
 知照一とく私欲の思ふと我善と神と一とく慎獨の事と
 独我慎とて不自欺也と意識なり如けり何ぞ心廣く
 解脾なり浩然の氣天地のるふとくく可也とくく力よ他
 生り天地を虚とくくよあはすとくく一
 一とく同箕子周はにありとくく又洪範と武王は傳ありて
 は何そ也とく洪範と天の禹王よあはすとくく殷の付
 罪宥と獨也とくかから推へ天よ天中我つと武王
 よあはと洪範の而もとの天下と治むる大はなり天の天下を
 何とあは人よ治とくく一何ぞ私の意根とくくあはと瘧
 女んや平氏三程の神聖とくく海よ入とくく一乃せ

くるりたるを燻りぬれあさり

一 とも同じくしるのみはゆる博學の儒ありとく少くも
道徳真の歩ふところ藤樹生まると惜まらぬ園のけきも
をこそ真紀の端とひくまらぬ何そや 云々里の海にいま
よ飲むじつまあつらひと尺の白くし三軍の端とせじつよ
もはふとつらふもの也

一 朋友同くしるはあやとまをこそまよとこの人ありや 云々
よまよのあやと義理成りしは是なり小人のあやと
義理成りかくしは成りぬれあさりあ様のやうとくしつとくし
のあやとあはれまよのあはれもあはれも貧賤乃中よ親類
あはれはあはれあはれとあはれひかくりこころの我があはれ
まよあはれとくしあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

とくしあはれと仁きく義なりあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれと鬼をふはれむとあはれとあはれとあはれとあはれと
まよまよとくし人のうらとあはれとあはれとあはれとあはれと
慶よとくあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
乃助あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
神とあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
一 學友同程子と人安重なり何と學堅固也とあはれと我等
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
静なり成りあはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

作ありあはさうはくやまらふかみくやまらふかみ也
 安重その中にあは山をその体あつたりとらんともま本
 とまらふやまら山澤氣成通くお泉あり流行静
 中よ何りかみかみよ安重ハ動静ふくく心定まて云
 然る何れ自然り安重あり

一 夢友同さくあらうとさくさくさく人 云志ハ義理よ志
 是れり人の不知然もつと義とやある事たたあぬまの
 け一ああり

一 心友同さく目人の體向然とらんやとさくさくさく可也
 のさくさく五七字乃よよ一生の精神とほいやと
 連城乃よ体持く雀ふまげうつうあくとの終ふ何そ
 や 云せらる善哉とれくと成不知者そ甚るりともうか

為事成思らんよまらふかみくやまらふかみの人の
 善とさくさく人まりあうまよ一人の體向者詩作とありて
 志を失りんとすかかきま也

一 齋友同せらる知うとく事くさくさく赤面か何とそ處
 とく道徳のさくさく 云固よ云あらうの凶なり拙と昔也也
 世の知く巧小近くあは凶なり吾子くよ拙と昔也又云
 巧まらふ賊あり拙と昔也とせらる知る死の自然又徳も道
 一 吾子徳をさくさく徳とくもあらうのさくさくさく 同

有徳の人乃何れ不奪くく徳成さると性命成乱世よ全
 くさる事ハさくあつて一人の聖賢人情時愛よ達
 一 終ふあは拙とさくさくさくさく 云人情時愛よ達
 せらる有徳のさくさくまらふかみありとく道とさくさくえ

名実利害不入とせざる如く成り世を智を真知とす
 きむ人懐時愛の時とすも世は徳の人を愛あふ
 間はあつてもたすげき世有徳に志氣あつても世の道を
 ちり人死知人の死をたむるの事とすも死をひそ
 無事あり無事ありとすも死あり 回つても今の世を智
 有道の伏し居る人ありとすも 有徳の伏し居る人あり
 貢の毎も用ひ居る人ありとすも 今乃世を智とす
 一奮又と告ぐと貴教者小巖牆の事なりと命りよすも
 くの事なりと告ぐと人 云何とす事とす 云き教人
 是對しと云れ也又怒火の氣ありと人なりと告ぐと
 巖牆よあつてもや今やとす 云き教人 云き教人
 後云れとすむる人ありと告ぐと人ありと告ぐと人
 ても貢ももた死あり 云喧嘩とすももあつても
 人とさりて切腹せんは死ありと 云き教人 云大
 死の理とあつても怒火のたぬふも死のたぬふも死
 きてあつても死ありと告ぐと人ありと告ぐと人あり
 あつてもとすむる人ありと告ぐと人ありと告ぐと人
 不方務ものおぼしとすも死ありと告ぐと人ありと告ぐと人
 常よと告ぐとすむる人ありと告ぐと人ありと告ぐと人
 云君乃干城なり自然の用は備へて死ありと告ぐと人あり
 て私欲乃火氣なりと告ぐと人ありと告ぐと人ありと告ぐと人
 礼ありと人道ありと告ぐと人ありと告ぐと人ありと告ぐと人
 死ありと告ぐと人ありと告ぐと人ありと告ぐと人ありと告ぐと人
 理と告ぐと人ありと告ぐと人ありと告ぐと人ありと告ぐと人

一 舊友よ昔々く云き後亦不好人のと即くあり方の分際
 づりのに蓋せしむるなりとて禮義うやくし善信は其等乃
 らんは一事をかくと人あひしむるは好人とて然も志
 ありあつたは又家人族人の凶人也とかも言け凶徳教を
 を極く邪人も志す人一乃ん病あつゆへは自言言りて
 凶徳とまむるとき教の故老を表裡せり外人はあがれも
 家人族人吾人也とかも言け人相あひまはれとも一の
 儘あつたは百無事とて言ふるは又邪なりんはひり
 肉づりの人なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 神の福とまむる也故者も同じ小きよむるも言教を
 自らよ凶よ入也一

一 學友同儒佛の辨よまむるは學ぶなりなりなりなりなりなりなり
 彼佛とまむるもなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 ともなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 上儒佛の辨よむる道と見さると大なるなりなりなりなり
 漢以濯之秋陽以暴之晴々乎不可尚なりなりなり玉の寶た
 らなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 らなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 と石知るとなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 者小儒學のひんわりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 まるなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 今儒者仏學とまむるも又同一なりなりなりなりなりなりなり
 せりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 跡とまむるなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

をいふ人佛子流おほく人をも天台と稱するはなり
 天台とておぼるるは佛子のくく一まこと稱よはるはる人
 とをもつて感あり稱を學ありまはとも近くは法より付て
 實徳ゆゑに感あるのこころも實のまことなり 同
 ゆゑに佛子といふ 云佛氏の字に死と畏るるふくはり故よ
 ちれ成るるやまは稱するはまことなりとも死を畏るるより
 悟成るる聖學の徒死生成直業といふ事なるを畏るる言
 とありまは一故よ死成といふ 同形跡つゝ見愈るや
 云心迹を形と稱するのこころも一色つゝ佛氏稱譽人
 傷と稱するは痛廻と出る事あり天道痛廻の事ありまはと
 輪廻といふ事ありまは一鬼物成るる事ありまは有る
 ちれ眼病也それち見ざる者ありまはも佛へて思ふ

を眼病と傳ふる也自名を病にんくといふの事一氣九
 ちらる者ありまはけはるなり其感よ執理の事ありまはあり
 びく痛廻と出る事ありまは眼病也は世乃佛者けいん病と
 けいん痛廻ありまはまは又自名を病の執理ありて其
 信成るる事ありまは故よまはまはまはまはまはまはまは
 直に道なりまはまはまは痛廻と出る事ありまは目も出
 家よ信ありまはまはまはまは痛廻と出る事ありまは
 病ありまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまは
 名をまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまは
 病ありまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまは
 一學者同は學たうらまはまは佛學實よりまはまは諸儒
 のかひ入がらるるまはまは傷のこころも近年稱する

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as ghostly characters.

集義和書卷之十一

義論之九

一心交同孟子ハ大賢なりと徳ありて聖人小及ハるるを
 といふと孟子ハ己小至處よりある故に道徳仁義といふ
 といハ万歳ノ師たり聖人ももてはるるはたかづゆある
 あるを小也老孟子乃言小をいひ終るるをわあること
 伯夷の徳ありて柳下惠ハ不恭なり隘ハ不恭小は君
 といふ由とより貴光ハ處をすれハ伯夷と師也柳下
 惠と孟子ハ終り孔子ハ聖の時なりといハ師といハ鑑
 といハるハ何ぞや 云孟子ハ天下万歳ノ師也故に中道
 といハるハ人ノ物といハるハ多し清とハ和といハるハ其
 人ノ由也可から師といハるハ何ハは是あり故に君子ハ不由也

此通病なりし者一も者ハ過と云はすていづるはこゝに或
 るかざれると徳と好いと多と好いとくなくさうれ徳徳也子路
 ハ賢と賢と一も多ふくさう人あり後世道子も君とたさく
 多しやしの子路の過とすて喜へるやふは及むかは魚一
 衛小つてさうこやこの過はうらみなりはさうさうやの事は
 平らふも若もはくあり一喜難と見ての事やあく大か
 氏勇のほまれありて後死と安せし事ハ又く一後世ハ
 勇者といは義とかりさゆ若は及く子路の好い
 夏ハいかかりさ事なるも過とさういかりさ事也
 心友同ハ舞ハ善人同舎也後人といふハ大毒ハ味
 聖なる人の平人多し賢なりと舞ハ徳ハ十リ一也
 及くさう若も又毒ハ若ハ大おしとく人の若ハ小なりと

人徳小徳小くさう大善とさう小善とさうはさうのいふ事
 云大舞乃公ハ意と如くわ天ハ蒼と眼くあさうこく鐘
 此塵のありし物なりさうく万象とさうはさういふ公中
 思ハれぬもさうい善もさう小善もあつ大善もあつ人
 小一善はまは一枚の花ハ鏡小くはつとさうい一善ハ
 好也とさういさうい事ハ中鏡中ハ花ハ鏡中さうい花とさう
 好も毒ハ公ハ善と有し好いさゆ有さう人ハ善と受
 小善ハ天下ハ善と許容して其内而位ハ好されるさゆ
 て人のさうも用ハ國ありさゆ好い好い体ハ是とさうい
 舞ハ大徳ありて常人の小善と好し取用あり善ハ小
 してはとすて人小善とさうい一自己ハ好いぬ一は大
 善ありとすて人の小善とさうい善ハさうい好いすさうい

わの毒の四公よきや一善人有せふ方なれんくさう一取
 つらあつて古のゆふら時われ胸中より教出とるま
 人小わつてい小善ゆて益とくれさし舞れ丸用注一尺大ふ
 成て國家天下小益わらぬとれぬ小ふくはらむ紙指さ
 うあし一石知志い石よのささり玉人これと死てみる内いむと
 かりて賢とゆつぐさるる善に天下れ人の知と用らり大かほ
 一心友問孟子は齊宣王の善と為小きわつとこなるそのは
 楊氏の説と孟子も丸用られぬゆとく大賢抑実小して
 好勇好貨好色好世俗之樂とさゆとく直と以て善、
 かくらる也か小もわぬ大言と為て人と欺者い與小克毒の
 乃よ入るる法と書せふ道理を極せりさうあ小老これ
 以てるふ入るるさうあさうあふい何さや 云孟子は定に

善と為小くわつとこなるる半紙丸く羊と不見とて以て
 さうあさう仁心と以てなり崇よとて初天宣王は後見と
 て去つと志わつとるるの貨と好と多と好むとさう私
 公うとて人なゆら友也懺悔とらとすう戒秋の風か
 了戒人々仁義と不志と悔廻のさと恐とく執意とる
 して欲とあふ前知と懺悔して後寂滅と極つとじとす
 といれると戒秋の字ゆして可なり仁義れ善まといとく不可
 義の性的か者ハ恥力かつら一恥のかゆるさるる公と悔
 懺て此と改り善ふはつるまの欲悪れ凡かといくみていん
 と欲とれとてこれをかるとふはあはれ恥のかつるるわ懺悔也
 されと改めさほつと以てさうとて懺悔とる者いさう死さる
 似されさるる善とさうとて改め終小悪と改め善ふはつるる

この形よりして小鈍刀骨と云ふは、いふ所の如く、佛者
の懺悔して画紙改まらざる小入者の悔過と云ふ見解あり故也
小人の刑罰と云ふは、悪とならざるは、幼少れ子も物恥し
て人前へ出づるの如き、赤面可なり。成人は、才徳もあらず、
才徳もあらず、一善もわたり、人おちせざる。その人の
人おちせざる、やもれ子に人たる科敷なるが、しむる成人
小入るは、ひて才知なり。大なる平人か、向その方なり。此れ恥の
辱しや、善もなかり、おちせざる。内におちせざる、成人の故
宣王の、一と云ふ、その如く、庶人ありて、可く士君子、ある
は、宣王、天災朴実、ふして、直と云て、若くは、さりと、
さりと、ぬる小入る、さりと、又一等の人也。其位も、わら、大
言して、人として、さりと、事、いふ、及、は、能、わ、る、如、
ら、蓋、飛、して、は、若、さ、り、一、騎、舌、か、付、者、を、い、く、も、竟、書、る、
小入る、さ、り、や、れ、又、い、ふ、不、足、

一孝友同何と、治國平天下の要と云ん。云國天下は、
と、は、と、要、と、は、孟子とて、小入る、は、さ、り、人、小、財、
は、さ、り、と、恵、と、云、世、人、と、は、さ、り、に、か、り、さ、り、徳、也、と、は、受、る、者、
は、さ、り、人、小、教、る、小、善、行、は、さ、り、は、さ、り、世、人、と、は、さ、り、
と、は、さ、り、人、若、い、徳、は、さ、り、と、は、さ、り、人、小、令、能、財、
は、さ、り、人、小、恵、な、り、さ、り、と、は、さ、り、人、徳、の、ほ、ま、れ、さ、り、人、
道、教、る、は、さ、り、は、さ、り、と、は、さ、り、人、大、な、り、さ、り、と、は、さ、り、
と、は、さ、り、人、十、三、も、は、さ、り、と、は、さ、り、世、俗、の、さ、り、と、は、さ、り、
と、は、さ、り、人、天、下、は、さ、り、と、は、さ、り、人、さ、り、の、治、り、天下、の、
は、さ、り、人、成、世、も、と、は、さ、り、と、は、さ、り、人、治、平、の、根、と、

ことらば其申と云ひあつたに不仁なり民と見こころ
 赤子と保をわくことならん善公なればなり人に我子水火の
 くふらりぬいそとすいふならぬにねても席と安しや
 とも味と申んで多くの事とも二人の力ありてあまの難
 とすらふやあつた内これと助らる術とわらる人ありて
 年来のあつたなりとももを借てもとつてのいざはつて
 も我子れとくいと求人況や管者わらふらつた
 とめくこといふやそと内乃も免れ難とわらふはつて已
 と一難は高と卑陶とわらうとつて已く憂や一より一人の
 君子と求る方民の若くはとつていづれも同今も役人なれば
 同敷よといふぬつたぬいふも一夫此の如くも盛長
 い富きふふといふは内代も位もく禄重う人の子弟
 とつてふかつていふは生れく一積蓄なりあは
 りと夫とくは聖の末やつてよとつていふは内は微賤の
 中少勇者の人出る者小あつたと求るは内は微賤よととせり
 同ぬとく其身微賤なりと徳とて小君子なりは民の父母
 る公なりといふは非給とて尤進てゐるもこの名は
 責任なるれはつては夫と求るは内は微賤よととせり
 此業と事なりはつたて天下の治乱はつたて國君一國の
 の民の父母也天下小及ぬ公なり大君は天下の民の父母なり
 大君の父とてつて天下の民とあつたてはつたて
 のこと丈夫舞の知も賤賤とつて居てつてつてつてつて
 まつたてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

ことらば其申と云ひあつたに不仁なり民と見こころ
 赤子と保をわくことならん善公なればなり人に我子水火の
 くふらりぬいそとすいふならぬにねても席と安しや
 とも味と申んで多くの事とも二人の力ありてあまの難
 とすらふやあつた内これと助らる術とわらる人ありて
 年来のあつたなりとももを借てもとつてのいざはつて
 も我子れとくいと求人況や管者わらふらつた
 とめくこといふやそと内乃も免れ難とわらふはつて已
 と一難は高と卑陶とわらうとつて已く憂や一より一人の
 君子と求る方民の若くはとつていづれも同今も役人なれば
 同敷よといふぬつたぬいふも一夫此の如くも盛長
 い富きふふといふは内代も位もく禄重う人の子弟
 とつてふかつていふは生れく一積蓄なりあは
 りと夫とくは聖の末やつてよとつていふは内は微賤の
 中少勇者の人出る者小あつたと求るは内は微賤よととせり
 同ぬとく其身微賤なりと徳とて小君子なりは民の父母
 る公なりといふは非給とて尤進てゐるもこの名は
 責任なるれはつては夫と求るは内は微賤よととせり
 此業と事なりはつたて天下の治乱はつたて國君一國の
 の民の父母也天下小及ぬ公なり大君は天下の民の父母なり
 大君の父とてつて天下の民とあつたてはつたて
 のこと丈夫舞の知も賤賤とつて居てつてつてつてつて
 まつたてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

ありて月知のりくして天下の使小用する人と一國小用して
都のしるしを功なりと名あり又天下小用して
わきまをれし小用して用ては可なり人なりと知る有方と目
かゝれば君子治世平天下は先勢なりと後世の君の用は
まゝらる小用して人なりしを君にば使儀と命するありし古の
少く上小用してはゆきにして君子の風あり人も使へしなり
その事調らるる上生計より氣徳の徳をせむけりくたしし
小用してはゆるし小使のわらうる人なりと名なりし生計
多うる人といふも一急量あり若し名なりし小使のわらうる
徳の人と使やうしめく徳ある通理あり 同富者小用
ては富者といひ貧賤小用しては貧賤といひ是は人力量
のりくく富とくさう大賢以上の人なりては下なる人
まゝなりとれりくして下なる人なりて徳徳の人なりとく
それ有徳の君子は富者とも通らるるなりと名なりし貧賤も
そとありては威徳も示すなりと名なりし徳徳の人なり
ほり位小用しては外と移るなりと名なりし徳徳の人なり
と名なりし小用しては外と移るなりと名なりし徳徳の人なり
一國の者同くま今代佛者、貴人の師なりと名なりし徳徳の人
下とて民の困若と名なりし徳徳の人なりと名なりし徳徳の人
利益のる小用しては外と移るなりと名なりし徳徳の人なり
月なり徒枉のりくしては外と移るなりと名なりし徳徳の人
十二月八日の十月也興業の車馬を通するなりと名なりし徳徳の人
野て民力を用へし内にも小用しては外と移るなりと名なりし徳徳の人
は民徒歩の憂なり今民間の足踏はありは外と移るなりと名なりし徳徳の人

徳徳の人

徳徳の人

賢く遊民らうく舟楫と作て議とて人とりて民を治る
 婦女子童子にわたりて民を治る一民の自力ゆく橋とわ
 るといふゆゑにわかれ者さへは治るやうに法の割ゆさる
 う今の堂儀の十と一と換て天下に舟楫河小なるべし法の
 と慈悲と申すは少くも右の賢君の政の一事小も及ぶ
 るとよはれしや又早小治てぬふとすうも民の自力と必ゆ
 未の治ゆえと申すは少くも世に治る如くすくも人
 と治るに力なりと申すは少くも世に治る如くすくも人
 戸ていつら河にありと申すは少くも世に治る如くすくも人
 らる人もわくはくもふと申すは少くも世に治る如くすくも人
 橋とてわかれももはくもふと申すは少くも世に治る如くすくも人
 早は治るといふは少くも世に治る如くすくも人
 任るは治るといふは少くも世に治る如くすくも人
 と今も治るといふは少くも世に治る如くすくも人
 此の必とわたりとありと河の民の力を治る如くすくも人
 河とてわくはくもふと申すは少くも世に治る如くすくも人
 られとて治るといふは少くも世に治る如くすくも人
 昔のわかれは少くも世に治る如くすくも人
 今も治るといふは少くも世に治る如くすくも人
 わくはくもふと申すは少くも世に治る如くすくも人
 中一少治るといふは少くも世に治る如くすくも人
 一朋友間をわくはくもふと申すは少くも世に治る如くすくも人
 かりわくはくもふと申すは少くも世に治る如くすくも人
 らふらう者といふは少くも世に治る如くすくも人

さし向し君をく好むを好むは徳也 徳侯は人
卿をく又ハわらうとも此立の人をくもわらう一門よ
家とわらひては小位禄なき様もせば久しう向し
孟子の曰入則無法家拂士出則無敵國外患者國恒
亡然後知生於憂患而死於安樂は家ハ位禄重く
正しく継体の君乃よ志を内ハ師とありて外ハ内諫と
さうされともさ法と愛せらる乃大良なり代ハ守にあり
國とて小存亡する也位禄わらうして叶ゆるは拂士君正
しく扶助し君をく好む君正しく明されハさあそくも此
去り敵必外患ハ必しも戦國の内ハわらうを我とくも
わらひ其さうといはれ小衆とく災となす人さこのなりさ
侯の志卿小わらひは作徳といはれ一之政とくすさあ

さ國也久から彼もさる君政も感して服もさる
故しつる公服なりを政よされハ公服して知れまりとこ
かりしつるれば氣遣のてはさる一之政とくすさあ
とらとそなりぬ代ハ徳侯されしわらうと下代主の
齊これわらうと齊侯が者りわらう凡情ハ如此乃とのさ
ハたされ公女とてさる向し一之政とくすさあ
らひぬ先王外小徳侯と志也然らば秦の始也徳侯
大良なりは方一歳昔子孫天下の王も徳侯さるて天下小
徳侯一人もわらうてさる天下と一統して年もち二世朝
齊三年二世子嬰四十六日わらう漢のこの祀は降して
日もちわらう十六年わらう秦亡らば秦の始也
齊の大敵とて一之政とくすさあ

加量人なりしをホロ外は氣遣キツカシなりとの方なれば
世しをりゆきゆきわく亡ホロりたる世に領知リョウチとて一己の
地も持たば獨史ドクシの宰人サイジンなりたりしを夫秦乃乃シノノの
初ハジメに多居タケ入下カサと亡ホロりしをありし世に賢人君子代徳し
かりしりしを外は徳侯トクコウと多く之置肉チキは夫後氏ゴシ
へとて四百年の天下と子孫は傳ツクりおとて款必クワンヒ外患
なりし者ハ四恒シツコよ亡ホロひ憂患ユウケンありし者ハ生安樂セイアンラクなりし者ハ
死す所の格言カクゲンありしを多居タケ入下カサの二方を保
能ニシといふをといふ道徳ダウトクには多居タケ入下カサなり是利家シカの大
下カサとありしも南帝ナンテイありしもと同ドウなる情ツシを盡イハす
才サイよ盛セイ大ダイなりしと内堅固ナイケンコなりしも物モノと廢イハすも
改カるよもこの驕奢キヤウセ生ナる一イチ家ケ由ユくかをなして天下

此コノ持モチと失ウシひしをいふも一イチ海カイの大樹ダイジュ老臣ラウジンありしを
南帝ナンテイと凡オソク弛走チソウして成ナるもこの世ヨに少紙シウシなり
家ケと徳トクと情ツシとありし物軍家モノイクンケに改カるも老ラウじしを公家コウケ
も古風コフウと不尖ウシメ足利アシカ家ケも派根ハイクネありしをなして格カク紙シ
失ウシひしをいふも一イチ海カイと南朝ナンチャウと亡ホロりしを夫氣遣キツカシなり
事コトありし方カタ歳サイなりしとありし世に一イチ海カイに吾ワ子コ不知フチの在アり
南帝ナンテイも御和賸ミワホクありしを改カるも物モノと廢イハすも物モノと廢イハすも
りれは多居タケ入下カサの中ナカに眼カネ前ゼンの事コトなりしを同公ドウコウありし
一イチは善ニガクくありし也

一心交ココロカウ同ドウ者モノ子曰コトヘシ性セイ無善ムゼン無不善ムフゼンと又先儒ケンブ曰コトヘシ性セイ善ゼン性セイ惡アク乃ハ作ツクといふ二説ニセツありしをいふも一イチ海カイに吾ワ子コ不知フチの在アりしを夫氣遣キツカシなり
善ニガクかりしをいふも一イチ海カイに吾ワ子コ不知フチの在アりしを夫氣遣キツカシなり

もつていふがらう三徳の異なる不性者の之を察す其
 一叶^{カキ}をたれん其の心^{ココロ}に云^{イハ}君子の性^{セイ}をたす不^フ者^{モノ}といふ主
 意^イ、非^ヒなり生^{セイ}これと性^{セイ}との公^{コウ}と同一^{ドウ}の靈^{レイ}を云^{イハ}
 身^ミ、此^{コノ}の靈^{レイ}明^{メイ}と不知^{シラ}なるあり、君子^{コノ}を云^{イハ}心^{シン}と性^{セイ}とい
 るは又^{マタ}君子^{コノ}が有^{アル}より矣^{ナリ}なり公^{コウ}の体^{タイ}も虚^{キョ}靈^{レイ}不^フ昧^{マイ}な分
 そのされいも、あるなり、此^{コノ}の公^{コウ}と性^{セイ}との公^{コウ}も亦^モあり、
 性^{セイ}と性^{セイ}の公^{コウ}なり性^{セイ}の感^{カン}通^{ツウ}なる結^{ケツ}成^{テイ}也^{ナリ}、皆^{ナニ}
 善^{ゼン}なりと悪^{アク}なりと惡^{アク}なりと人^{ジン}欲^{ヨク}の松^{ソウ}なりから
 て性^{セイ}の感^{カン}通^{ツウ}ふも、さういふ所^{トコロ}なりなり、性^{セイ}の善^{ゼン}
 ありて人^{ジン}欲^{ヨク}の害^{ガイ}なるものか、それとも、善^{ゼン}なるか、君子^{コノ}
 の性^{セイ}善^{ゼン}なるものなり、孟子^{コノ}も性^{セイ}の公^{コウ}体^{タイ}より善^{ゼン}なりといふ
 わり、この公^{コウ}なりといふは、^{フトモナキ}其^{コノ}の公^{コウ}の公^{コウ}体^{タイ}の善^{ゼン}思^シ

善^{ゼン}の靈^{レイ}不^フ動^{ドウ}ありて感^{カン}して天下^{テンカ}の故^コよ、通^{ツウ}する、^{カキ}此^{コノ}
 一^{ヒト}心^{シン}友^{ユウ}同^{ドウ}孟子^{コノ}曰^{イハク}為^イ政^{テイ}不^フ難^{ナン}不^フ得^{トク}罪^{ツミ}於^ニ巨^{キョウ}室^{シツ}巨^{キョウ}室^{シツ}之所^ノ慕^ボ
 一^{ヒト}國^{クニ}慕^ボととり古今^{コキン}天下^{テンカ}共^ニよ五代^{ゴダイ}も武^ブ家^カし、君^{キミ}とな
 いう、そのありて権^{ケン}威^イととりと威^イとと奪^{ダク}なりと、その者^{モノ}を
 大家^{ダイカ}なりし君^{キミ}を人^{ジン}知^チあり、勇^{ユウ}なりと、その公^{コウ}者^{モノ}を
 公^{コウ}者^{モノ}なりし君^{キミ}を人^{ジン}知^チあり、勇^{ユウ}なりと、その公^{コウ}者^{モノ}を
 公^{コウ}者^{モノ}なりし君^{キミ}を人^{ジン}知^チあり、勇^{ユウ}なりと、その公^{コウ}者^{モノ}を

一^{ヒト}心^{シン}友^{ユウ}同^{ドウ}孟子^{コノ}曰^{イハク}為^イ政^{テイ}不^フ難^{ナン}不^フ得^{トク}罪^{ツミ}於^ニ巨^{キョウ}室^{シツ}巨^{キョウ}室^{シツ}之所^ノ慕^ボ
 一^{ヒト}國^{クニ}慕^ボととり古今^{コキン}天下^{テンカ}共^ニよ五代^{ゴダイ}も武^ブ家^カし、君^{キミ}とな
 いう、そのありて権^{ケン}威^イととりと威^イとと奪^{ダク}なりと、その者^{モノ}を
 大家^{ダイカ}なりし君^{キミ}を人^{ジン}知^チあり、勇^{ユウ}なりと、その公^{コウ}者^{モノ}を
 公^{コウ}者^{モノ}なりし君^{キミ}を人^{ジン}知^チあり、勇^{ユウ}なりと、その公^{コウ}者^{モノ}を
 公^{コウ}者^{モノ}なりし君^{キミ}を人^{ジン}知^チあり、勇^{ユウ}なりと、その公^{コウ}者^{モノ}を

一人としてこれ徳と認めよ。一と情と大君の恥恐る
 君の威と。之を大なるあやまりとなりたる
 乃を辱しとしてこそ君とものく。こころに徳と教
 子らひよ。是れ利害と的くふゆ公を我より欲と
 一徳とまじく徳と。終りに巨室必と公服。向ふ一
 事とよりよ。ぬめ人。士民ともふ之。一と志と。い来。うか
 大君の徳と。わさ。同徳と。助と。あつた。志と。沛
 然と。ぬせ。事と。あ。一。同君の教と。あ。さ。う。て
 さ。あ。人。な。う。い。え。え。さ。わ。の。人。の。人。と。ふ。帯
 け。う。と。ま。そ。一。その。され。い。さ。と。す。と。そ。可。なり。と。上。君
 の。乃。心。一。く。仁。と。く。志。あ。ふ。と。あ。の。さ。う。は。士。民。と。あ。ふ
 くと。一。一。憂。ひ。る。ふ。不足。同君の徳と。あ。ふ。さ。う。ふ。士。民。と。あ。ふ。

一。大君の徳と。わさ。う。さ。う。ふ。士。民。と。あ。ふ。い。は。れ。さ。と。

君に遠くして。あふ親しく。は。何。事。も。ひ。た。れて。

一。易。一。大。に。い。さ。う。れ。と。下。ふ。遊。く。の。う。も。し。あ。れ。

一。あ。ふ。恐。れ。さ。う。か。か。その。あ。ま。あ。う。の。さ。う。と。君。に。あ。ら。さ。

一。親。一。の。交。も。さ。賞。罰。も。ふ。大。君。の。取。り。い。く。あ。正。

一。あ。ふ。法。人。信。と。な。て。服。さ。う。さ。の。か。ら。の。あ。は。大。君。賢。れ。

一。ふ。天下。の。治。さ。う。事。と。さ。う。さ。う。の。あ。は。大。君。賢。れ。

一。あ。ふ。く。わ。さ。の。く。ゆ。と。あ。ふ。あ。

一。心。交。同。再。求。季。氏。の。家。長。と。あ。う。く。民。と。う。さ。う。あ。ら。さ。

一。あ。ふ。と。り。孔。門。の。さ。う。あ。れ。は。後。世。の。一。く。不。仁。あ。り。と。

一。あ。ふ。と。り。事。と。あ。う。と。あ。う。と。あ。う。と。あ。う。と。あ。う。と。あ。う。と。

一。あ。ふ。と。り。事。と。あ。う。と。あ。う。と。あ。う。と。あ。う。と。あ。う。と。あ。う。と。

一。あ。ふ。と。り。事。と。あ。う。と。あ。う。と。あ。う。と。あ。う。と。あ。う。と。あ。う。と。

ことばにいつても一し事なるをわくくゆる
 不義なりは世の極は民とて多けくとも多けぬ
 わくことばに何しゆふさくれくかき多けりわし民にゆく
 らして地蔵モリナリ多フホクくともなり民に信ヨロひ地蔵も満是
 と何事なり 同志する孔子何とて甚くしてくせりま
 や多しゆもその民れぬよし此とわぬありてことばも
 れゆる 云不義をかりて凡ホニ夫の知チかりて事な
 總ソウくく交のくくすありま上地蔵物月とつらなる事
 賤用シエンヨウ乃ノもつゆらるる事多し非フぬぬめりあたるは
 てさるるもの古に農夫ノウたりありはこれよりさるる
 七十シチジュウかして二とありあり民の地分チブン八の中三サンなりて
 は是してすは一は是とてセハるるものことばわく一
 とよま一と二と民よまると一あり主人満是して民悦
 かりと下乃ノ小コまされども孔子の責セは王オウ君キミの責セは
 乃ノ小志コシわりてニ文ブンと作サクるにむらさるるは費ツクる物と上
 下にわくして仁政の助タシとすること充チたり孝コウ民に仁義と不
 義と利と乃ノこのめりしちるはゆのゆく富トクりゆく吾利公
 と勉ツクけ奢シヤと長チヤウとるハ僻ヒキよりなりとも上ウと後コト乃ノことば
 現ゲンわり再求裁判の間ハはるは極キョク一奉ホウのりりるふと
 ありありありしゆあり下のはいえ又しり小コなる一
 らくハ民ののこ初ハジメは倍バイとてしれ徳を乃ノことばなり君
 人の徳とこのときゆものなりとあり孔子深フカく務ツクるは徳
 一心交同孔子トモ心シンは登ノボりて魯國ロクノクと小コなりとて一は徳
 泰タイ心シン天下テンカと小コなりとてやと給タマふ居イるる益イキなりとて

ことばにいつても一し事なるをわくくゆる
 不義なりは世の極は民とて多けくとも多けぬ
 わくことばに何しゆふさくれくかき多けりわし民にゆく
 らして地蔵モリナリ多フホクくともなり民に信ヨロひ地蔵も満是
 と何事なり 同志する孔子何とて甚くしてくせりま
 や多しゆもその民れぬよし此とわぬありてことばも
 れゆる 云不義をかりて凡ホニ夫の知チかりて事な
 總ソウくく交のくくすありま上地蔵物月とつらなる事
 賤用シエンヨウ乃ノもつゆらるる事多し非フぬぬめりあたるは
 てさるるもの古に農夫ノウたりありはこれよりさるる
 七十シチジュウかして二とありあり民の地分チブン八の中三サンなりて
 は是してすは一は是とてセハるるものことばわく一
 とよま一と二と民よまると一あり主人満是して民悦
 かりと下乃ノ小コまされども孔子の責セは王オウ君キミの責セは
 乃ノ小志コシわりてニ文ブンと作サクるにむらさるるは費ツクる物と上
 下にわくして仁政の助タシとすること充チたり孝コウ民に仁義と不
 義と利と乃ノこのめりしちるはゆのゆく富トクりゆく吾利公
 と勉ツクけ奢シヤと長チヤウとるハ僻ヒキよりなりとも上ウと後コト乃ノことば
 現ゲンわり再求裁判の間ハはるは極キョク一奉ホウのりりるふと
 ありありありしゆあり下のはいえ又しり小コなる一
 らくハ民ののこ初ハジメは倍バイとてしれ徳を乃ノことばなり君
 人の徳とこのときゆものなりとあり孔子深フカく務ツクるは徳
 一心交同孔子トモ心シンは登ノボりて魯國ロクノクと小コなりとて一は徳
 泰タイ心シン天下テンカと小コなりとてやと給タマふ居イるる益イキなりとて

八百里と見ると益小から見えたる既又人から成るも
 小からその親も不長といふなり子孫のくつてなれば
 多き傍と方なりとて。 なる傍にせり見れば小なる方なり
 勝れ去らば必と胸中なる道の廣大なりとて其の至
 方なりとを知らば自らさすれりといふなり。 同義目と
 也平ししうらうら國家天下れりといふなり。 世を治るまては
 氣の毒も笑ひもあひてなりとて上安下
 ゆるかりとてそのとと致ひくとて此は非とせりと
 かりとて對るれば小なるを生れさしてかりと知見乃
 ちまはる中の中よりかき取りしあはれ形なりとて考を
 京師へかき取り日本中の長久と思ひておぼれ
 疑へる大明は是れた大國の治れとて少くも日本は
 忘るる一死して陸陽の邦をさする。 普天率土の道は
 と物て東夷南蠻西戎春秋の一方百年の治れなりとて
 公とせりとて慮れぬれば十二方九千六百歳と一割せり
 天地の壽も一かき取り何れ日本は小なるを生れては
 小五十年の命殺のる小見るとして其の憂しやとて
 其の大小なりとて一仲の仁感して惻隱の情教をいふ
 徳に於れりともあはれりといふ非かりと畢竟吾人の位
 ありとて政をこれ事とて小の勢と不志の凡情もあはれり
 孟子云右之賢王好善而志勢あり賢士何獨不究樂
 其道而忘人之勢故王公不致教遺則不得垂見之見
 且猶不致而況得而長之乎一の聖王賢君を法
 とて其道を樂ひ給ふるなりとて富貴とては物ほし

八百里と見ると益小から見えたる既又人から成るも
 小からその親も不長といふなり子孫のくつてなれば
 多き傍と方なりとて。 なる傍にせり見れば小なる方なり
 勝れ去らば必と胸中なる道の廣大なりとて其の至
 方なりとを知らば自らさすれりといふなり。 同義目と
 也平ししうらうら國家天下れりといふなり。 世を治るまては
 氣の毒も笑ひもあひてなりとて上安下
 ゆるかりとて對るれば小なるを生れさしてかりと知見乃
 ちまはる中の中よりかき取りしあはれ形なりとて考を
 京師へかき取り日本中の長久と思ひておぼれ
 疑へる大明は是れた大國の治れとて少くも日本は
 忘るる一死して陸陽の邦をさする。 普天率土の道は
 と物て東夷南蠻西戎春秋の一方百年の治れなりとて
 公とせりとて慮れぬれば十二方九千六百歳と一割せり
 天地の壽も一かき取り何れ日本は小なるを生れては
 小五十年の命殺のる小見るとして其の憂しやとて
 其の大小なりとて一仲の仁感して惻隱の情教をいふ
 徳に於れりともあはれりといふ非かりと畢竟吾人の位
 ありとて政をこれ事とて小の勢と不志の凡情もあはれり
 孟子云右之賢王好善而志勢あり賢士何獨不究樂
 其道而忘人之勢故王公不致教遺則不得垂見之見
 且猶不致而況得而長之乎一の聖王賢君を法
 とて其道を樂ひ給ふるなりとて富貴とては物ほし

然るに君子の富きいひりく衆とするの教とほそよほそ
^{まろほう}を富きか分けりし也有る善人と好しあつひはる富
^{こほ}ては位ととも志きく礼と節くも修つり世法ととも
^たらるるも内は奇物なり事乃極まらんとも根を天
^た下達する中やとも徳天爵なり位人爵なり位ハ
^天天爵とほる人より人爵ともわらん徳ハ位の中や
^てて二よりとも老と若の養ふとも天爵人爵のひより賢
^若若わつては流つるをともかりあつれを三達するも法あつれハ
^孫孫と一もじか賢王下あつり賢者とも見給ひて是
^位位威勢を小志ともく礼と節とも志給ふとも必死の理な
^了了君王の四子なりとの民間小あつれてあつれらるる徳を
^ははるるも同く天爵のあらる人賤しの中小居るも

あつれらるるはかち賢徳わらさるる民間に居る人の教
^とと忘るるらん天と衆の命とも知るなり献敵の中や
^居居る堯舜のるる徳衆の善位も素じてあつれはるの
^知知と不給かち一治一乱ハ亂世の徳衰わらん事乃得
^失失わりて交復あつるの常なり富貴貧賤の上き
^下下へは流るるも寒暑の往来するも賢士こ
^ままはるるも徳かちかちあつる王公も教とつる礼徳
^尽尽すれは切にお思ふも其言は実ならず不給上より求給
^ああふらるると不給いんや我らり上より求むいんや何
^をを國天下の得失と公と私人や吾人あふらるる御事わら
^志志の天下國家と憂はるる州郡の公と私やわらるる善
^心心徳は王ももなりあつるもあつるもわらるるの性命のあつ

是乎曰好善優於天下而况魯國乎夫苟好善則四海
 之內皆將往千里而來告之以善夫苟不好善則人將
 曰訑々予既已知之矣訑々之聲音顏色詭入於千里
 之外士止於千里之外則說論面諛之人至矣與說論面
 諛之人居國欲治可得乎魯必曰孟子乃才子樂正子
 とわけて政とかなんといふはききて孟子才小悦て
 て政もしゆゆとかわりかたきとて士教多おまき
 氏安うゆ一こおひゆ一はかりと云孫丑とて不喜一
 て云樂正子の強カふしてゆく事とのしり小退屈
 せさか人と知慮分別ありて事乃裁判とてとて
 人々古今人情時變の來歴とてとてきく志向あり
 多き人の政とすか才は是等の備へては叶えん
 才は方はけけりても政小あひうきたそれありて
 と樂正子いたれ乃才わは者ゆきかたれとて不喜
 小あひて向なり孟子れ善よけけりといふる公孫
 丑とて政とかなんといふはききて孟子才小悦て
 て不喜ゆきとて返して同をなら孟子云樂正子の
 善と好者也公孫丑と好むらりありと云國の治
 するは事のかたきゆきとて人己世剛乃れ事と
 きといふものありと云吾柔の人なりと云の類と云
 有り天真異剛乃れ事とて人己世剛乃れ事と
 こりともとて小者あり如此の人政小は却て害小か
 なるものあり事とてと時不信は叶はされ人信は
 こととしてゆきとてと云と云はあひてゆきものなり

是乎曰好善優於天下而况魯國乎夫苟好善則四海
 之內皆將往千里而來告之以善夫苟不好善則人將
 曰訑々予既已知之矣訑々之聲音顏色詭入於千里
 之外士止於千里之外則說論面諛之人至矣與說論面
 諛之人居國欲治可得乎魯必曰孟子乃才子樂正子
 とわけて政とかなんといふはききて孟子才小悦て
 て政もしゆゆとかわりかたきとて士教多おまき
 氏安うゆ一こおひゆ一はかりと云孫丑とて不喜一
 て云樂正子の強カふしてゆく事とのしり小退屈
 せさか人と知慮分別ありて事乃裁判とてとて
 人々古今人情時變の來歴とてとてきく志向あり
 多き人の政とすか才は是等の備へては叶えん
 才は方はけけりても政小あひうきたそれありて
 と樂正子いたれ乃才わは者ゆきかたれとて不喜
 小あひて向なり孟子れ善よけけりといふる公孫
 丑とて政とかなんといふはききて孟子才小悦て
 て不喜ゆきとて返して同をなら孟子云樂正子の
 善と好者也公孫丑と好むらりありと云國の治
 するは事のかたきゆきとて人己世剛乃れ事と
 きといふものありと云吾柔の人なりと云の類と云
 有り天真異剛乃れ事とて人己世剛乃れ事と
 こりともとて小者あり如此の人政小は却て害小か
 なるものあり事とてと時不信は叶はされ人信は
 こととしてゆきとてと云と云はあひてゆきものなり

樂正子の善と好しと云はたれの中中月ありん
 此我憐なり故に我是と云ども人れ善かると悦い好
 してとねまじと徳性ともよく同善なり故の切あり
 美知ゆふかれは正邪とのつらうくわきると事の時而
 位よ叶と不叶と善の天去小應とをり強よかつじ
 の分別の徳よ美悪とをりはとてくわきまを分也え
 らぬ事ん我をよわれと仁厚溫和ふして善と好て
 人のいさちと悦ぬ家小人踏次の遠く成と善多とを
 を来て善と善と善と下との情はとふまの人れわき
 ろうと善と善と善と下との情はとふまの人れわき
 其可あわうをたふ天下の人民政道よとてくわき
 正家よとてくわき天下の人善と善と善と進内ハ善とて
 つらうと悦いぬ天理人欲並よさる故なり善は好の徳
 とも一回は用てともよくとふ天下は用をたふはよくと
 善は不好人れ氣象ハ純くやして聲音顔色とも
 く賢人知者とも小里のわぬせと諫と拒し意思
 わり善人ともまねて退きかきり内々小人内と悦
 して賢知と悪と悦はくとも後り媚論人の善
 ぼた右ふともともくともくともくともくともくとも
 けらるえ上乃を叶つともとてくわきりともくともくとも
 此同徳ともくともくともくともくともくともくともくとも
 人よ剛悪をまねて位はち小と悦たり同善とてくわき
 好もともくともくともくともくともくともくともくとも
 勢古之賢士何獨不然樂其道而忘人勢故王云

不致敬盡礼則不得亟見之見且猶不得亟而况均
 而臣之手古の聖王賢君ハ賢知の人わらぬ國治ハ
 其のくわ位も勢も忘るるをわらぬくありて
 礼とわつてくまのさゆつて執政大臣も人とも
 こまき好むのたかりまう徳とまの道と重と
 友なり善ラ好の玉禮なり王公位とわらぬ
 勢もほらうく賢知ふらうく内の人義士皆野不
 がれてまらうと謀論面諛の人ハ利と好むらう
 云礼とまらうく君民の悪とまらぬ也賢士ハ
 と傑て人の勢とまらぬ者ハ王公といふも
 使く礼と重くまらぬ其知力とあまらぬ事
 不絶賢士不絶く知力と厚らわらぬ事

一孝友同君子の父母と祭礼とをいふ
 鬼とらうくは小死生一貫ふくく明
 公とらうかりの故も孝子乃知も親を死せらるる
 一はこれいふか一 至誠とまらぬ
 一心友同和書れ和言多くまらぬ事
 一又きつり交はれは小章今も本
 知ふらうくは人ふら迷いとまらぬ事
 つとまらぬ世のまらぬ事
 一とくまらぬ今日ハ天職なり晴文乃運も
 公乃圖昧とまらぬ夫恩小報も

取てこれよりいふこと

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

集義和書卷第十三

義論之六

一心友問仁此理ハ孔子といふこと一言行で説き一好むこと
 こころもや門人の問は答ふ所皆かまひ 云仁ハ全徳也
 心ハ同小答多ク其心此位よりて徳ハ大徳也 端をのこす
 一子日如有王者必世而後仁と是恩澤の行を極く天
 下に行はるを仁改とするの義也 吾心ハ空虚天地の間
 ほとろく不通といふあり未仁と云ふは 同くも
 天地万物の理事を物と知て是然と云ひたり 云ふも
 かくと事々物々の理を知りては吾心事を物と知上
 小もろく好悪ともあらず時ハ仁はあらず天下のみを
 好悪するよりなり 義と云ふは心より物

仁なりと(醫)書みそ足乃ちびきさへくふは不作といふと
形存すといへる氣不通一人のたからにさうさうあり
あれど之富貴貧賤死生壽夭莫秋患難令して自得
せどこいふとや天地乃陰陽人生の順逆を吾も備
まし何の好悪とやあわらんやまがふ好く極む悪く
さるる心めりる一貫するが義と流れるはささ不仁なり
心友同礼之用和為貴といふ用は体用の身友の用をさる
の用といへる徳として此章受用小心得なり一云礼此
用は禮のゆゑを可也禮はつづなり此時ハ必と乱るると
し和は怒をなせり夫礼ハ恭儉をさる易簡はた
時而位は應ずる時に和ありてめひ易し天ハ易と云く知なり
地ハ簡と云く能なり天地上下は位定り礼なり易簡の書も
和なり易なる時に和なり簡なる時にささなり知や
と云ふ時に和をもささなりやと此時功ありささ日月はさる
くのふ四時運行してやまると天道の悠々して無窮なる
可也礼樂のなかり人事和を專らむが流やと一云礼と云く
節と云く一礼節をけむと和をもささなり一礼節さる時に
頌しく又礼をなす礼樂なひは其根とや陰陽動靜の理
なり先王は道天下の事大ふと云く是よささなりささ
一夫礼ハ上公女一下と治られ備るなりささなり古今人情時
變異成事あり易云黃帝堯舜垂衣裳而天下治通其
變使民不倦衣裳をなせると天下治るは事なりささなり
其變を通して一人の退屈せし礼法よささなり治るなり
ささなり徳よささなりと時と人情と徳とささなりささなり

然則是非知と貴一とすなり

心友同顔子仁と云んば孔子非禮視聽言動世に事して以て
かゝる道德の字は忠とものさよやく非礼乃物と見聞
言行をさすといふゆへに顔子の大賢にして此受用を事
とん多き河也 云其位は非礼あり常人分上学者
分上乃非礼あり進て常人分上の非礼あり聖人は
幼く非礼あり顔子聖人ぬ不及といふ一等なりぬ聖人
らざるなりと云ふ所の流るる礼といふは天理流りしを
らくもやまざるなりなり易云天行健君子以自強不
息といふ天行健なる礼の体なり君子用てとつらばとめ
て中より非礼が起す心上の心ぬ及ぶと視聽言動は
さあつても須臾もさかざるなり顔子分上乃非礼也

三月行はるるなりといふも四時より三月に

三月といふ年中は事年中たゞいふなりと云ふなり
もいふ心ありてつらなるなり三月の字あり
らざるなり至誠乃去息あり顔子の聖人は進一
化するなり則聖なり此世語と事とすなり也 回要
も戒慎ありや 云わく同なり夫心といふ心
も戒慎則自然は出て付たり戒慎は次といふ
なり則去心也いふ心何れの時なり須臾乃息なり
とわくは次去心ぬをて物之息あり自強ハ克己也不息
ハ復礼也用之自強不息といふ天行健も合も吾心造
化といふは天下吾仁肉あり春夏秋冬日月星辰寒
暑風雷雨露霜雪土地山澤河海ありて吾身あり

備しつゝ家々のけりあは天下仁也澤するなり
一心友同軍陣必を備わりの移く備る此の敵子逢
て食ふあはすとすしをう也治國の備は何れも作る也
治國乃備の政也政は孔子既ぬることなり是食足兵信
之乃之なり食不足は士貪る民の盜と軍詔や其
刑罰たへば上奢下諛て風俗いやし盜をばらも彼か
罪より守る是政討すべはたは雪中は庭をうる粟
とまけてあつまる鳥とあみとるあはし教へりて殺
う不仁也況や民と死地をわけてはし一命を也上又三者用
たりとせし下をじさける下困窮す是は上とせしむ是
逆亂の端なり戦陣とすことして國をふり一兵とせ
ぬは備わりの況や信の道と也同食と是れ道いふ
云上恭儉ぬる威嚴ある時の丈夫士はしはし
る民を己が力より以て五穀を生は工商の粟よかて食を
奉貢とせし甚とくかまねば民遊樂をゆる耕作を
事にせしるものなり甚多をねば飢寒は成りて力なき
ことと候ふはさお時の五穀の生をうると浪りし食ふ
士民ゆゑの母とて武備なり此の又亂を起す武藝はと
ふも多る上をと拓くものめと常に馬とあらし
筋骨強つてし間す此馬乃生をうる候ふし弓をうる
味夫れ根うち鈍刀のからしは金具は金は鉄は金は
之師塗師を殺鎗槍切付をうる也のたひもして
武具の細工人を多置て軍用も事かけざる候ふすは
兵を三といふ也士民たは病はして氣血もくやうなり

政教とありとて第一也信之天道ハ誠也其誠と中心して
 生れかゝる人ありて其元亨の誠を思ひて失ふは邪
 竹と偽る厚と風俗をなせと教有り世信れ中に仁義礼
 智乃性理の多くみとあり人といふ身目口鼻の備ふる
 こと一民といふことべて任り記者の惣名也つて人といふれ
 士工商屯の中にあり度人といふ所を伸して度人と教
 治る人といふ及なり天下國家の政道乃ともなれ礼法
 の事法乃もふをなせり信と乃その多ひて礼儀
 法度及儀禮ともむ州也徳のなせり人父母とてひて礼
 法をげさるもの也何とてこれる場た立かたは人の徳
 誠不妄といへ聖人乃礼儀法度全く備ふると何の益か
 ありん五典十義ハ誠の條也風厚く事とてくも

五倫よく相親じ如此して乃ちをあるに礼樂といふも
 乃事ハ素ぬれとて礼儀法度なくも天下國家飲食衣
 服備ふては武具もなく武藝建者もて誠の道のあり
 中とて君臣相和し父子相親み夫婦別あり兄弟存
 わり朋友相ゆるりて争訟なく礼と願ふもいふ
 同信ハ也弟一は乃終るも弟三は乃六何也
 云ふ政の次第也人生れく飲食よわらさる長と
 子といふこと成るは取初る乃終る兵具よわらさる
 禽獸人ぬ交り強弱相凌て静るは心を上げ愚と
 下みす家の備なり故に次に乃赤子母の胎内とて
 一聲耳なりてじろぬ則天真存も父母乃赤子と養育
 するもわらさることを遠からず家の誠よなり信也

三才論上

五

此天性と人欲の爲りなりあかす所なりとあかす終よれりか
け三乃大事とのぞく小至ては不得也してやじつ四兵と去
る一信ありて衆和する四杖を以て堅甲利兵と勝へ
と理を又不得也して二乃大事試去ふ四乃食と絶て
てく死も天下の人一四又死して天地無ありとも可や
信なく禽獸と成て生一義は成らば順行して義も害か
この四の政は食試去を先と次植の産もくして恒る心あり
之のくもくは是も又誠を去る乃備るなり又遂行して義
害あり四乃後乃を抄り持人の命ありをのり四乃次身
かり食よりして成長し兵試去しと生は全くと下を
敬言固と信乃道を去る人の義を行ふ其老衰も及て
力つとく無きなり食啜もくならずと死と不也とのい
る子貞小あり寸ハ此同とまうらふとを盡るにれり
よわく次ハ此答あり天下の政道治乱得失乃此三
大事乃存亡のみなりとかけくハ此其玉母何らす天下
其天下よわらぬ易簡よしとめ白也 同後世豊年ありて
食足と云ふ士困窮し凶年にして食不足と云ふ民饑上
下からよく若て位つめふ乱世と成とのあり何と云
ふ此のくもく来る亦餘多ありとつとを其大なる
一乃ハ大都小都其河海乃通海も地り都するなり
驕奢日く母長くと云ふ也つと高人富て士貧
くならるもあり二乃粟試去く諸物もめあり事次第
ふうとくくびる金銀錢を用るると専なる四乃諸道次
身小高直も成て天下に金銀商人乃多ふと云ふ大身小

長論

身其小用不足とするものなり。二は當然の式なり。財の事
をけく物多くなるとは、土の禄米と金銀錢小かへく諸物
とふ米粟下直行く諸物高直るふ財用足はて上り
事をけく物多くなるとは、貧乏困窮と士困すは民
ふとふと倍とふは豊年と不足は凶年と飢寒と
了士民困窮する財の工高の者粟よかふ飽ふとふ
た大高のものとす。富をみりけり財用乃権度人の
手にあはせたり。夫国君世主の財をみりけり富貴と人
をみりけり富貴と人よ。財を先むく國士の天下
礼ある財高の富身れあはせたり。虎の皮は文ある故。田獵
の樂は、高の金銀多くなるとは、盜賊の奴となり。或は命
と夫へ了草木の情けり。不財ありて、落葉枯槁と物は
盛衰の物の自然也。況や己の利と專行、衆の苦と、
何ぞ久しからんや。

一心友同孔子曰其身正不令而行其身不正雖令不從又季康
子之政を問ふ對て云政も正也子帥正也其孰わあへく
正一からざらんこ又乃終りて子も不效るふ是と賞はどのか
ともわもまじくとありをみ後世は上正志をこれ下正一から
さるものあり上不效るはとも士は效あり下は盜をすふ
しやうとふ者ある何ぞや 云徒善は政とん子も不足
はとの也悪なきは君の才も權威ある財下とてさるもの
善るは君も權柄威嚴なり財下とてさるもの後世君
さる人其身正しく不效なれは威けりは柔善なり
あるものなり。政をす方の道をさるすの如正しく不效

その善なりとも其化士母うつら守其澤民よ及ぶん是
氣質の養ひて道德よりおたるものあらん是れ也道德
不得たるもの善行で威る又善行は徳の道と云ふ
故に其徳儀士大夫母うつら其徳化民庶よ及ぶん是れ也
ゆへ孔子曰君子の徳を風也小人の徳を草也草に風吹
くよ色は必じ偃とせぬ君子は治世に殺を不用若威
なけしと殺すもふつとふつと殺すも出さるもの也
上君よ威力を以て必下を威あり下より上を威するよ
者ハ必不善なり不善ならん威あるは母志と云ふもの也
一朋友同我甚不才なりかくては學問成ゆるは也學問
ゆるは何事かの用はを立ぬるは也學問よりて才知は
不道理ありて學問の道なり 云々

才知は生るんや學問は己の明德を明くもせん也才知ありて
徳をうるは昔より徳の助けたる者ハ稀也學問は眞
の爲の一歩を求むれば才知は己の心を以て自ら先正の
身とらふ一歩は學問は齊家治國平天下の道也才知を
家とらふは國を治めんと天下平らむるも成ふ古人云つ
たは己の吉也たかくなるは出するは拙は徳なり巧なるは賊也
と不才の拙は徳の外道は自然の幸也才知は巧
なりは徳を失ふは不祥なり君子天然に吉を得るは
受けて出するも不祥なりは徳が失はるは不祥なり學問は
くは己の徳の連なり解く自の徳を失ふは世人皆大死と
いふは己の徳を失ふは不才の命なく才の命のみ

義論上

ト世に人みか芳とせしめて安を願ふ才ハ芳一不才と
体と才知ある者ハ己ノ身の出をせしむる乃と身ハ人の出
をもあつて深山乃木と材あるハ斧行竹の憂も不材
乃不ハ斧行竹の禍も一其天性を全ら民行て拙
ハ其農事と世とめと他乃思なり一才ある者ハ成とあり
野前と成と人の者もつらむ武士母志と拙と者ハ武道
のたしむる成と一國に于城と成乃と無事の時を
文武学とつらむたれ乃一みだに成て他ノ勞多く
累なり一才知ある者ハ役儀を命せしむる一才ハ
一武士と成るとも武業成と一才ハ一才ハ一才ハ
いへんや文徳をせしめんや一生無事と一老衰は後
悔益なり一問如此の道学天下にわたりしるる人
不才知の才一才ハ一才ハ天下國家誰の才ハ

云才知かく進んで人民世と問ハ悪あり一不治は年過悪の
源ハ才知とを生じ至治の世何と才知を用じや
問堯舜文武の代五人九人の才臣も孔子も才知と一
乃成つた才知用とあり一あらむや 云はる天下才
知を亡とて悪の源と絶乃才臣也今才とつらむの才
一才知今才ハ堯舜よありて用るあり一才ハ刀乃と
一才ハ刀乃とつらむや一晝夜身成らむとつらむ
一才ハ一生用ハも威をたしむる無事也小才ハ刀を朝夕
用るがぶと一人成らむ身とつらむ無事なり
一才ハ一才ハ今乃才ハ才也朝夕常て國家をたす
ら守終也國をたす天下乱ら驥ハ其力以稱也

其徳を稱よカも驥才也世も驥の力あり馬ありし
つども驥の徳なり是も年馬よとをくけり驥ハ力
有りしと云ふことつとと云ふおけりて幼童よとありけり
ふあり善馬乃右あり以て人オもて徳が終極物
なり不才乃徳も近きなりある也云々
領方く田地なく金銀なき者ハつとと才知を不用ハ何
とて父母妻子誠養育しゆるんや 云々
甚寒くも後菜はあさる者乃とと 貪りの
のれは孤求く己の天性より有りて一段つとと
と其職事とこれ可なり

一心反程子敬乃心法を問 答曰言論の及ぶあり付
書よりいひ言ふよりて敬す者ハ多し敬といふもの
中

中めゆさかりて心の自然を失つり古人の心と我心の
相通して自然を得ありとあり氣力以て用る此功あり我敬乃心
法とするとと吾子にかりけり子心の一物ともくじり
予所謂中者天下大本也喜怒哀樂未念之時此性
然在中心有散逸則失其所以為主也説得く
吾物乃敬を知也 同事之物をれ上も天然の中
と云ふもの何をや 云器物其則を得るも中なり
飲食其味を得るも中なり天下の大本也といふ
充塞してありけり其体の中といふ
其用と和也といふ人の不動を云といふ動を行極といふ
かひも同一く一人乃人也百尺の本根本より枝系
云々生意一貫也根れ土中にはあり枝系

言とが同じくいつく中国の字異字より出づる概あり
 一 心交同先生ハ先師中江氏乃言紙用ひて自乃是
 となし終る高慢也や、予者あり 云予の先師より
 受てたるは予のそのハ實義也學術言行の未熟なり
 四不位也應す予の目とかみゆと熟し、時を當ぐ
 爰通も、魚し予の後乃人とも又予の学の未熟紙補い
 予の言行の後志時々不討をいへらむむ魚し大道
 の實義もをいへくハ先師と予と一毛もたふ事あり
 し後予の後乃人と亦同し其爰も通して民人ら
 むとなし此知もむし、言行、心の不同を覺て同身
 紙争ぬハ道を知らるなり 同何を、大道の實義と
 しか 五典十義是なり、一事ハ不義を行ひ一人の罪
 かり者紙殺して天下紙得事もむ、此ハ實義あり
 不義をめぐと悪をまらむ此明德紙固もすむ也此
 明德を養て日く小ぬあり人欲の為り害むらむ
 予と心法とふ是ハ心法乃實義也先師と予やむらむ
 心の言ハ 漢唐日本といふもたふあり、此實義と紙
 らるるハ其云やむらむ先師乃言にたり予も先師ハ人
 あり予の故の人と予の言紙非として不用ともは實義
 らる人ハ予の同志也先師本も亦凡情と意むらむは
 志とすなり未熟の言と用と先師と實義するもの紙
 の凡心も、是先師存生の時受せむものハ志ハるは字
 術ハ日く月くも進て一不ハ固常とすなり其至善と朝とる志
 紙継ぐ日くは新にするの徳業を受へる人のハ真の心成へ

古より民三よきは父母生一君養ひ師教ゆと云り
 恩を以て記ふことより三年に喪はれりといふ事
 師を以て記ふも其恩君父は同一子よく父の家を起し
 臣よく君の徳を以て先門人よく師乃字を新に由る
 ことと其恩を報ゆる也

心友同春夏秋冬の如く日月星辰同一人の形異なり
 ありし仁義禮知の性備ありてあり古昔の道德
 の人多しと今も多しと何ぞや 云孔子曰古之学者
 為己今之学者為人也今世の道德の衰へるは
 古之士者利己今之士者利己をのこすたれども
 其徳を失くし小人となり

一心友同仁者不憂知者不惑勇者不懼とあり
 一は君子の道三つありとあり君子と
 云ふ仁者知者勇者いつまも君子の義なり 云君子
 の不憂仁也 不惑知也 不懼勇也 此三あり時
 あり君子の道廣大也といふ心の徳も本はく時
 ありす此も云義也己を成は仁也物を成は知也性乃徳也外
 内と合する乃道也なり一本一也一人の人あり
 父也臣たりといふ君也帰するといふを夫と名
 一仁知勇同一く性の徳なり君子乃天地
 運死主禍福ともいふ一は己ありし
 陰陽人鬼富貴貧賤夷狄患難入りて自得せんと

三才論六
三十三
云々心もあはれはるるなり事流水のごとく去事流行
のうかろあよつさくわ知者と名付君子れ浩然乃氣天地
よゆさかじ剛強盛天よして万物の上よのひやふ物
秋よたしゆさき威武よ屈せらるれど悪鬼妖物猛獸
もゆあらしわささふあよつさくは勇者と名付さる
か村常人の憂ふあを不憂よよらして君子は知と
もあはれ色し凡夫のあふさくはあふさふよらして
君子を知とともを色し世人のれをあふ紙をそれ
さふあふらして君子を知とともをさく時ふら三人
となりて思ふとも害あふらして又仁行して知勇紙のひま
知行して仁勇紙のひま勇紙と仁知をわひさふ
者あり是を氣質よ得さふものなり氣質よたると

仁者ハ好く人ハ愛し或ハ其身温柔寛裕ナリふらふ
了也不憂といふよふなふ紙のひま不憂を知り紙と勇
たふさふさふららひさふ紙也氣質よ得さる知者ハ俗よ
いふ分別者也然ども万物一体のにまけさバ物紙成て功
あり人間世乃名利得失の分別のさかりあきて幽明死
野の理をわとふのあふらふさふあふさふ不惑といひ
わらへ氣質よたると勇者ハけんさふさふあふはれそれ
さふ也山よ行て虎狼をさけさふ獵者乃勇也海よ今
蛇龍を恐れさふ海士の勇也戦陣よまひてらふ矢とい
ふさふは武士ハ勇也大森彦七ふとの武勇者とそら
妖物よ逢てら氣質とらふさふとあり其上海よ入てハ
海士よ及らぬ山よ入てハ獵者に不及大勇ハ名紙とらふ

氏士といふも不懼といふも一物よりして恐る物も
またそをそねむるも知てらるす仁一体も決して物も
二よりち成也道学は得たる者いさあらん勇者仁知を
切縁てむそめくあましく知者仁勇誠を縁てらるす子不
ましく仁者仁知勇誠を縁て憂るそらん明く君子の道
三より成らん一もかきくハ君子といふも
我よくすうもなるといふは孔子といふも
あわれむも去るが後世の人いひ及ひゆん 云今
も人わく我よくいひゆるふと誠同志れつと先さふ時
も我よくはくわ得るもいひて人をすすむ我よくすふ
事ハ皆志まらんといふは義といひて
さやくいひ

一明友同心学其甚象戯の遊ひも禁割也とリリ
中しリリリ 云心学乃事ハ知と惚して道徳仁義は
志と者ハ人欲を禁割する理めてゆきも全く格し
去とわるといふ何れいとゆるとく末の甚象戯を禁し
ゆ信人道学ハ藝成事ともふ人ハ日成發してたら
もとせり其甚象戯をすむるともせり文藝成意
も心けをも後日月成送る人ハ甚象戯の遊むとせ
さふよハ中とわく禁するぬに及らんは双六ハ博
奕也下地とも成るじ博奕ハ悪事ハ根よりかた
ハ根よりさくさくを戒くも可也本立らば末乃は流
らぬとい禁せさをもをのりていひものなり本不
立して末を禁るといふ禁せさるぬをわくとも

一心在問曾子曰孟莊子之孝也其不改父之臣與父之
改是難能也也莊子父獻子賢德徳ありくよく人
用よりぬは其改カより不改カとむる何ぞあはれ哉
とするや 云父乃獻子賢賢よりく子の莊子知あり
又孝心厚厚く故母是改改よくせり古今父小えらわる者
れ子乃代母河はさるしと二あり一なり其者よけきと
子れ方カずとの者權権をさるる身身せんとい紙教して父は
えらわる者を年くありさぬめりひかむよめり
つる其上父子好悪別也也父乃臣紙用ひは父の改と
改ふ者ありは子不明明にして孝心う涙きん也二
ぬは父もえらわる者私多多くよめらわる事紙年く見
置て是紙不用又父の改可可ぬありらざる事と多り
改じ改子もとのたりは子知あり不孝不孝と

父の中心善人を用ひ善改紙ゆふ紙教とくは
よ是り及する者ハ人欲あは紙害まむむり親の本
心もさるひて悪を改め善よりなり國家は長久を
あして親の先祖も不孝ハ罪をせぬ也一は
孝也親乃好悪ハ一身の私也國家代この守かり
夫へ善行て知不足なる者あり知もて行不足なる
者あり善人けりく知不足なる者ハ平生の善を
より行徳正正しこととも肝要肝要なり
具具は事とれけりくあるもたけり行不足
るれとも知恵知恵ある者ハ平生の善の行とより十行と
七八七八とく礼儀礼儀ありらんととも肝要肝要なり

つる形も其よりぬ事と消えて人情時勢より叶ぬもの
あり父善人にして母れありとて之を知らざるは
人を用をりわらぬ政時取任より不叶子不賢を
知るとも知ありて人の善悪を見たり政時取任
叶ふ外より見ると父より子よりは是とて思ふ
るは是の時父乃代より國家よりははらば子代より
よく治ふ者也父不賢をれとて知ありてよく人を用ひ
政時取任は叶ふものあり子善人多れば知るは是と
終め不明なりとて讒言入る子乃代母其功にげと
此二の者の自然の勢也父母えらばり者しとては
ぬ者としとて是を多しとて外又國も舊切の奉り役人
多しは子代よりなりて其賞れとて多くは何れ功
徳ともよみ人方すみとて任録其小分は過ふ者
多し一父子相繼乃れはあらすはのあは孟荘子より
れ孝よくなり

一心友問伊尹の聖代任かる人も孔子の聖代時する人なり
とて孔子の孔子を任かるるは是の時も當ては任しは是なり
列聖代中何れ任より尚ほ是なり云湯武是也天下乃は
乱る人の安否を以て己の任より是なり徳より恥の悪名を
かたりては實に天下に歎するにあらは巢許の清わは
任重くはよりて進て辞せは禁を流放せり君禁政
を志ありて湯武の教をくけく道を行は必むは是
天下をかたし授くは一討君悔ふ心ありて武王より
降る先惡を改て善小うつらば必も助て仁政を行は

志心ゆし武王を討てて流放し至むれど
とて大國を興へ高き祭をつくりて自害せり其後討王の子
を立てて大國を興へ高き祭をつくりて自害せり其後討王の子
一後世敵乃子孫といふをたづねて殺さるる雲泥なり
太甲無道なりし其伊尹は其を討てて先を死せし
伊尹は其を討てて先を死せし伊尹の教り
志心ゆし武王を討てて流放し至むれど
一後世敵乃子孫といふをたづねて殺さるる雲泥なり
太甲無道なりし其伊尹は其を討てて先を死せし
伊尹は其を討てて先を死せし伊尹の教り
志心ゆし武王を討てて流放し至むれど
とて大國を興へ高き祭をつくりて自害せり其後討王の子
を立てて大國を興へ高き祭をつくりて自害せり其後討王の子
一後世敵乃子孫といふをたづねて殺さるる雲泥なり
太甲無道なりし其伊尹は其を討てて先を死せし
伊尹は其を討てて先を死せし伊尹の教り
志心ゆし武王を討てて流放し至むれど
とて大國を興へ高き祭をつくりて自害せり其後討王の子
を立てて大國を興へ高き祭をつくりて自害せり其後討王の子
一後世敵乃子孫といふをたづねて殺さるる雲泥なり
太甲無道なりし其伊尹は其を討てて先を死せし
伊尹は其を討てて先を死せし伊尹の教り

心なり、孟の如く孔孟は道を任して天下を治せしむれど
孟乃時諸侯の強大なり者之れ思ふ孔孟を助る
天下統一統せんと君孔孟乃才あり人切名のすしあり
わうて時乃諸侯を助るしわい天下統一統せしめん
とたかるとの内行ありし又ありゆるみ仁を好む義
を好むこれ異学を以てせむるのうら天下を治る
人氏を安せんうらうれと聖賢は道とまげく天下
を安んずるといせは兵をやめ食とわめく天下に人饑
死せしむるとも信のみ存するこの心を利
心友同天下有道則度人不議といふは法ありて天下
國家政道の善悪をいしめざる軍中に在る
聖者をしりて敵の美談談せし先づこれといふる也

同し事はくゆる也 云其口以辨て私議せしめさ
 子也あらば自然の勢以て天下有道は天子を
 天下に富貴をまて人母の守國君ハ一國に富貴を
 て人よあつても大臣ハ君以助て私の權勢あり農ハ
 耕し其職をまて商も有無と通して其利を
 するも天下國郡の財用ハ自然の勢ありて高し
 次何ぞ國天下の政令以議するも以せん天下道あり
 時の國君世主ハ驕奢なる事有道の時ハ十百倍と
 といても富貴の權ハ下より上りもの也故り商人國
 天下に財用の本末と心は取得て國天下の利をあたし
 山澤の深深河海の運行以て家と家の間に
 高し月ハ天下に事以委て士ハ月ハ万事に
 かりぬる廢人の私議するもよわらば財用の權
 乃ちよわらば心のよもよわらば高日ハ富
 て士目ハ貧し士ハ貧令ハ民よと法
 衣食以得んも便かハ記者ハ富高ハ數
 十人の也也或は四海困窮すも云堯曰四海困窮
 天禄永終と君乃禄福とまて天下困窮と
 也此時ハ當て彼財用以心乃ちさつてを極り
 富高ハ盜賊乃成と成と悲衰と益力ハ富
 聖人ハ言たりと

一心友同人の聖人なるを急しといふ透闢なるは
 云云又聖人城とわさ記極よ思つて者とわさ也

云其全徳を以て則ち聖人の神明不測の号を以て之の
あつたる所なりと云ふ也と人なりて其實體の聖人と異
なりと云ふ人なりて明德ありて大人を赤子に心を實
その也といつて字の後来れ人欲を去て元本の天理
を存すありて此字のよの也此心天理を專ら之と人
欲乃私なり則ち聖人の心なり

一心友同心の内外向と外に向ふ模様をいふ 云いむか
う論語に三人行必有我師といふなり二人あり
其一人を我とす之を一人と一ありて一人より善人を見
ては是を好しと云ふ也與し是は習ふなり不善人見
ては是を戒は形是をさけ或る心は是をさく處し我身
よも如此る不善ありやと云ふなり是は受用

かれを以て之を以て見時を以て此事なり
也と師外ありあり心のあり向は紙中なり
此より師我同は未なり善人見たり好むと
心則我身に善を以ての師也不善人見たり悪
む心則我身に不善を以ての師也心善を教ふ無
真われえ感應の跡依る如魚一明師ありと
いふも一念乃微の如く一は我なりありて善悪
を知る一靈の心を奉持すなり此の師我より之を
明乃身にてなり

一心友同心が志ありといふも志も亦あり切から
ん志といふも道も志も也初学は人道より志あり
ていふも道を志ありては是れ心志のむく事也

亦邪偽乃惑トヒトヒくあり。同志トヒトヒの行せとも正さ
 るあり志ともいへとも正し。如らざる人あり何
 ぞ。云氣質キツと紀人の道誠多マコトびさとも正
 し。さとのありき氣質ありさとの道の志す
 以ては俄は善人と成しあさるる人志しれとも
 恥乃我よりハゆさる色し。一歩道は志とも
 いさ道を以るる人。かさるる志善もじ之
 を大なる不仁不義を以るる。邪偽シヤクの左道シヤクなり
 中よ。愈うハ氣質よ。より正し。さ人の行跡
 といへとも道を志し。さ守方人の明なる。不
 善行進し其身ハ好人乃換ふ見ゆ。是とも事乃
 邪正を知し。不義を以るる人。又左道
 かなし。よあり。若わく天に物を生する。此徳ありハ
 此病あり。忽不足なり。家の不行正し。行不足は家
 との不明なり。志あり者ハ多くハ行不足は。之
 知りか。あり。あり。みり。何ん知らく。て。行
 正し。さ人。ささる。比。さ。草木乃。今日キョウ養
 を得。之。目長メナガす。子物あり。其本とも。から。い
 へ。末と同一。せむ。一尺のヤシキヒ。養ヤシキヒ。之。長す。さ
 二尺乃。木ハ長。せむ。い。を。像。ハ。あ。え。つ。さ。る。べ
 心友同志シヨウシヤク於道。摠トシ於徳。依ヨリ於仁。遊ユク於シヤク。上ノボリ。
 云他タ岐ギ乃ノ惑トヒか。人道の正さ。成得むと。欲する。道ハ
 志とも。あり。徳。め。さる。有徳の人。より。近。付。也。仁
 一。依。ハ。自己。天真シヤクハ正さ。め。な。づ。此。養。く。得。ら

義論六

わりの大休ぬとてふもこの也遊ふ遊ハ礼樂弓馬
書數等乃人倫日用の事なりをひて正しこよ
阿そふ也六藝ハ至理ヲ寓すふ所なり故ぬ專ふ
れさしむる時ハ末の理ハ偏く本心の徳を失ふもの
かり遊ふ心を知てくるは阿を其術を盡してさ
ハむるこいへうと道德乃助きを成く未藝にさ
まは遊ふ心を不^ス知^シて上子となるものハ道德ハ
大なり分をも阿之^チ藝術のともうさなる或るは
之をその厚^クすふを薄^クすふを薄^クすふを厚^クすふを
薄^クすふすふ或^レ厚^クもれを^レ藝術^ハ身^ノの害^ニ成^ルもの
多^ク
一心友問詩ハ興といへとも後學^ガ者興^ルしあ^リてん

古のむらり者ハい^ハし 云古ハ文を
詩^ハ或^レ始^メて待^テ志^ヲをい^フるも^ハなり善^ニ悪^ニ邪^ニ心^ハ
み^ハか^レ人^ノ情^ハ實^ニ事^也故^ニは^レ心^ハ誠^ニ者^ハ實^ニ事^也
人倫日用乃實事よとひく善^ニ心^ヲを感^ス発^ス善^ニ行^ハ
び興^起し一^ニ悪^ニを^レし^テ邪^ニ或^レ悔^ムる^事を^レさ^スる^事
待^テよりと志^ヲを^レし^テあ^リて^ハ同^レれ^ルも^ハ
ものハい^ハん 云^レれ^ハ恭^ニ儉^ニ謙^ニ遜^ニを^レ本^トし^テ虚^中ハ
天下乃益を來と不^レ争^ニ不^レ奢^ニ身^ヲは^レけ^ル也^ハ肌
雷^ノの會^筋骸^ヲ束^ヲを^レか^スる^事に^レ用^スる^事ハ^レ節
知^レ度^ノ數^ノの文^ハ家^國天下^ノ及^リる^事に^レ用^スる^事ハ^レ節
實^ニ嘉^ニ乃^ハふ^ル吉^ニ祭^ニ礼^也凶^ニ喪^ニ礼^也軍^ハ軍^法也
實^ニ主^ニ客^ニ往^來交^會禮^儀也^ハ嘉^ハ婚^姻の^レ礼^也及

び冠礼とす也人恭儉り此者ハ心を養ひ身と美
 家國天下を治すも恭儉謙遜ハ教方此時の
 驕奢日くく長しと争遂の事榮寸終小國七
 ひ天下乱る故又身より家國天下を治すも礼
 るけとむ不慈なよ礼成るとの敬と心と
 存し儉りして身を修め避順以て家とこの
 謙以て國を治先篤恭よりして天下平ふ
 子必至より礼を立乃義明くも人同今管絃
 の樂とつふそのを見ゆるみ樂よりして正心修
 身齊家治國平天下此事成就せんとも思ふは
 修し古の樂み成し者ハいつ心云孔子曰視其
 所以觀其所由察其所安と云くわく其云

の云く何事と云くみるは文字より馬等致學ひて文は
 乃つと先ぬれさるは其すくわくはよひて其心は
 徳業とまじさるは名利を求むる為かく見ふ是誠り得
 て利禄と求むるも名誠得ぬと思ふは文を
 学てハ道理をつきし人馬を習てハ其業誠く是
 う為さるはすくわくの心も此也志も其心乃同
 暇無事の時從容遊樂れ地を愛し心を用ふは
 其其安するも此也為さるは依とらるは其心
 ごと安も此也安も此也正し人すれは其心
 しく依とらるは心起ししく悦びし也大勇
 カれ人ありて志篤實也といふも樂成不義時安す
 正を此心を用るは此也

或ハ怠惰或ハ嚴厲なるもの也是正しき事に行はざる
道をたづむる也正樂成るといふは後心未だ
正遊びたれし事正しく徳入る易し夫樂小五
声十二律も或ハ歌舞一或ハ絲竹を志す人の性情
と養て邪穢を蕩滌し和順に導く道徳を得るの
方なり故に風を移し浴と易々と樂より導く道
学は樂を成就するとしりて同学し正樂を習て後
初く知るし文学して道理成るべしと樂を不
知者ハ其風情も通せん樂を學べしと文学せざるを
其道理も通せんと文学樂道ハ外用して心術と志
らざるは是れ心ぬれを樂しとあらずは此れ其
よ哉昔とくあり

一心友同御之弥高鑽之彌堅瞻之在前忽焉在
後此章道れ得たる事といふ顔子たみ得たる事
道もこの後学れ者いづく及ゆべきや 玄志あるはあ
らば大山を登るといふことなりわきまをばりて
すべし天を大なりといひ日月をくわいていふこと
象形ある物ハ数学をくわいていふことなり
道ハ高遠へまはるなり故に其高き付て御之彌
高しといふことなり目力見解の及ぬとあら
ば鑽之彌堅といふことなり才覚をくわいて
得べし瞻之在前忽焉在後といふ文章言語成る
ことなりこの知識の及ぬとあらば實義
をわたりて後不仰といふ高遠に及び徳行あり

後無窮乃門は入るべき知れ知を得て後益方其辨
 一を至へ一 同博文約礼ハハハ 云我を博の文ハ致知
 格物と云く万物一体ハ身成修の古今人情時変不建
 て用る時ハ行ひ舎ふ時ハ隠る也我と約するれば
 人欲さよくつさへ天理流行する也欲罷不能との見
 子不明らうなり也今の人志は立たぬと云は憂る者
 には見えぬからるる事也明らうなり時ハ見
 ぬやうんと欲すれども金じふとあつては掲才となれ
 たり是乃ゆくりと云へ天質の心を用于也顔子志學
 より善信教大は至る其才を流して以て先及
 たり也如有所立卓爾雖欲從之未由也已志より
 後大よして化せむと云工夫は此の及ぶにあらは

聖學峻絶乃地位言語乃不及也此時顔子天年
 終むとするの前なる也天顔子も年成かさす一也
 化して聖人となる也一則も一なり
 心友向知者の動も仁者の静も也一動一静ハ不相然
 こと其れ有徳の人なり 云是二人ハ一氣
 の屈伸天乃陰陽するごとく一動一静互ハ其根を在
 りて動く者ハよく其のなり知者ハ周流して
 ぬさふやうに物もよく其のなりたつて流水は流る
 歎息も左右其源は違ふ如き象ハ是なり仁者
 万物を以て一體と云ふ死生禍福も是ハ吾有也
 一を至へ一と云ふは命なり一を欲して静
 一山の象なり徳性ハ動して樂成知るといふ静なり

後論六

二十五

壽と仁と

心友問仁の全徳此名が里と云うるも博施濟衆と云うて
仁よりと大也と云うる何ぞや 云ふは仁は用とい

つる仁は天地万物を以て一体と云ふといふも用を以

ては天地の大方なると人なれど心むふ所あり竟然

と云ふ所なり己達せむと欲する所則人を達する所と也

思ひを以て云ふかすもよわらぬ仁者は一己の私を

して天理流行と云うる人我れ何ぞ云ふ物と利

するは徳ありて己と利と云ふの欲あり一己の私よ

自然行くと云うるよく親切はたとて云ふるも物と

二つならぬをい物よと云う近は身よと云ふなり仁は体と

云ふは太虚天地中國夷狄の云ふは物あり一子貢の其

用はつきていづれ小なりと云ふは聖人天下を有は能

事也是よりいへば求むといふは形あるもの必もか

らる所あり不相通の勢なり鸞飛魚躍形あり

是も各別なりなりは飛躍する所は乃その二なり

心は同死生は道は一と云ふは生は好む死ははく

むの心はさうよくつさむと云ふは年より白毛生

し身体はよりゆくを見えぬ感慨の心ありぬ

いづる受用はくくかふは情も愛しゆるべきや

云ふは学者不学者たよ人情の通情也と云う

まひて多さうめよと云うるもかたはりのさむひる

こととに仁ならざる事は一なり孔子のほころよ

徳用

二

一、心交同子曰温故而知新可以為師矣とい前より温
 故而知新は今日より行ゆ處に至善知識也とい
 温故の古は道
 二、温故の古は道
 三、温故の古は道
 四、温故の古は道
 五、温故の古は道
 六、温故の古は道
 七、温故の古は道
 八、温故の古は道
 九、温故の古は道
 十、温故の古は道
 十一、温故の古は道
 十二、温故の古は道
 十三、温故の古は道
 十四、温故の古は道
 十五、温故の古は道
 十六、温故の古は道
 十七、温故の古は道
 十八、温故の古は道
 十九、温故の古は道
 二十、温故の古は道
 二十一、温故の古は道
 二十二、温故の古は道
 二十三、温故の古は道
 二十四、温故の古は道
 二十五、温故の古は道
 二十六、温故の古は道
 二十七、温故の古は道
 二十八、温故の古は道
 二十九、温故の古は道
 三十、温故の古は道
 三十一、温故の古は道
 三十二、温故の古は道
 三十三、温故の古は道
 三十四、温故の古は道
 三十五、温故の古は道
 三十六、温故の古は道
 三十七、温故の古は道
 三十八、温故の古は道
 三十九、温故の古は道
 四十、温故の古は道
 四十一、温故の古は道
 四十二、温故の古は道
 四十三、温故の古は道
 四十四、温故の古は道
 四十五、温故の古は道
 四十六、温故の古は道
 四十七、温故の古は道
 四十八、温故の古は道
 四十九、温故の古は道
 五十、温故の古は道
 五十一、温故の古は道
 五十二、温故の古は道
 五十三、温故の古は道
 五十四、温故の古は道
 五十五、温故の古は道
 五十六、温故の古は道
 五十七、温故の古は道
 五十八、温故の古は道
 五十九、温故の古は道
 六十、温故の古は道
 六十一、温故の古は道
 六十二、温故の古は道
 六十三、温故の古は道
 六十四、温故の古は道
 六十五、温故の古は道
 六十六、温故の古は道
 六十七、温故の古は道
 六十八、温故の古は道
 六十九、温故の古は道
 七十、温故の古は道
 七十一、温故の古は道
 七十二、温故の古は道
 七十三、温故の古は道
 七十四、温故の古は道
 七十五、温故の古は道
 七十六、温故の古は道
 七十七、温故の古は道
 七十八、温故の古は道
 七十九、温故の古は道
 八十、温故の古は道
 八十一、温故の古は道
 八十二、温故の古は道
 八十三、温故の古は道
 八十四、温故の古は道
 八十五、温故の古は道
 八十六、温故の古は道
 八十七、温故の古は道
 八十八、温故の古は道
 八十九、温故の古は道
 九十、温故の古は道
 九十一、温故の古は道
 九十二、温故の古は道
 九十三、温故の古は道
 九十四、温故の古は道
 九十五、温故の古は道
 九十六、温故の古は道
 九十七、温故の古は道
 九十八、温故の古は道
 九十九、温故の古は道
 一百、温故の古は道

卷之六

餘乃經傳の年と氣力といふは一其家子生也
と家者の其家職と何とむる事の常乃業なり

一心友同貴老乃書紙及く口ぬわさげりてさるるあり

心よへむとわす取得とてさるるの中とんをといひさるる

我心よりかゝるるに人よと教ふ者ゆり書紙わら

しゆりよと貴老乃書紙筆法奈の多しとら

さる者いつと紙とてといひさるるゆり貴老

終として出しゆりゆり用る者乃書紙出ゆりゆり

とと未やかよ成ゆりゆいゆりゆり實徳あり

人ぬみせがゆりゆ不徳とて言ゆりゆりゆり

人ぬ取しゆす也夫有徳とて親英すり人其化を

ゆりゆり文明乃時ハ有徳乃人なりゆりゆり言説

をゆり世の惑紙ゆり切ありゆり言とてゆりゆり

益あらんと人乃言と成と助ゆりゆり同し事也ゆり

言のゆり人乃言ゆりゆ人の言ゆりゆり言ゆりゆり

天乃靈のゆり生だゆり取用る人ありさ心ありと

用人のゆりゆを辨ゆりゆ其言にゆりて吉利支丹と

ゆり左道ゆりゆゆ風俗とてゆり甚なり

一心友同里仁為美と孟子乃仁人の安宅也ゆり

意ぬと人乃身と安するゆり古郷あり心乃安樂なり

ゆり常なりゆり仁也とゆり子也とてゆり人あり集

註解解の外とゆり事也世説にゆりゆりゆり云

ゆりゆり学者乃ゆり力とゆり為りゆりゆり本解

集注の解ありゆり此語為りゆり事ありゆりゆり

うやうやの古御さうの風俗何ぞとてとてとてなりけり
後とある一一人の國の仁里もさうもけりすむとさ
さう勢とあり一篇の定めなりけり好之不仁乃風俗也
地一居者乃多先よ知仁とて先一道理を教給へり
此章さう仁城本心也事さうとて事願とあり
あよりと解あり 同不仁者約は居けり樂よ
と又切らざる事何ぞと云不仁者の物を二あり一己
の私を持しと世に渡るものなり順とゆと逆とゆ
と富貴は祿の貧賤といふも世にたれといひ
とくむあるれと其地は安と事ありと或はあはさ感
ゆるさうのなり富貴と得と大は悦び己一人の栄耀
とと終身の病苦とすゆに或は家と亡れとのなり

こそよむき一仁とわとさる所なり唐小スりの物
わりと善人はさうといつて武王天下を治る高
の代はつとてとて財用と天下を治る散り
も小四民乃多ありかた者よあはさ餘あると善人
はさう少興へく富し先治り善人ハ人欲は私を以
てさう天下の財用ハ天下の通用なり道理なりゆ
かさく富も小成てとてさうたうとて多の
ど人よやくとてはさうの樂ひ也君子ハ民ハ父母
といふ家も父母たるものたうたわと子よ分ちあはさ
とさう樂ひとするさう上より國天下に財を
ワらあはさむとてさうの樂ひ也多くわりてと
さうとてさうとてさうとてさうとてさうとて

却カクて害ガイ小コなるニしテありテ其コノ利リと利リとすル物モノ改カヘて
治チらレりカらズばモもトもトあラばモ彼カノ善ゼン人ジン仁ニ
者モノ是コト以テてモくレり私シはハ何ニとシてモくレり苗ネ子シよクのカらシ
外ソノより見ミてモ我ガ心ココロもハ治チらレり事コトをモたシ者モノあり一
庶シ小コ善ゼン人ジンをモ富トくレ先マ治チらレりとモくレり改カヘてモ
とモくレり及キばモとモくレり先マ治チらレり一

集シユ賢ケン未ミ書ショ石シユ第ダイ一イチ三サン終シユウ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

